平成 29 年 1 月

卒業生・修了生および就職先企業アンケート調査集計結果報告書

北 海 道 医 療 大 学
点検評価全学審議会

点検評価全学審議会は、内部質保証システムを策定し、多方面からの視点により点検評価を実施することとし、本学の教育理念・教育目標を達成するための大学づくりを目指している。

その一環として、卒業生・修了生および就職先企業に対し、教育の質保証の観点から本学の教育により修得した知識や能力の達成度、社会が求める人材育成ができているか、などについて評価・意見を聴取するため、アンケート調査を実施した。ご多忙のところご協力いただいた皆様に対し厚くお礼を申し上げると共に、その集計結果をホームページに公表することとした。

この調査結果を今後の本学における大学及び大学院教育のあり方についての点検評価の基礎資料として活用することとする。

ＰＡＲＴ―１　平成 28 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査
・集計結果報告書
・アンケート調査票

ＰＡＲＴ―２　卒業生・修了生アンケート調査
・集計結果報告書
・アンケート調査票

ＰＡＲＴ―３　就職先企業アンケート調査
・集計結果報告書
・アンケート調査票

☆　卒業生・修了生および就職先企業アンケート調査集計結果報告書（全）

PART-1　平成 28 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査集計結果

目　　的：卒業・修了予定者アンケート調査は、教育の質保証の視点から卒業生に対して各学部の学士課程における学習成果、大学院修了者に対して大学院課程における知識・能力の修得度合い等について調査し、教育目標・教育プログラムの教育効果の検証に資することを目的とする。

調査方法：平成 28 年 3 月卒業生・修了生を対象にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび修得すべき知識・能力について、別紙アンケート調査を実施した。

調査期間：平成 28 年 2 月から 3 月の学位記授与式当日までの期間中に学部・研究科別に実施した。

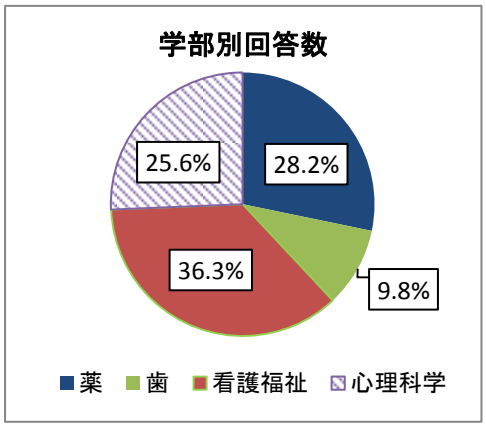
回 答 率：大学（学部・学科）の回答率は 76.9%で、大学院の回答率は 86.7%であった。

Ⅰ．大学・学部

■回答率

学部・学科		卒業生数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
薬学部	薬学科	１１２	９８	８７．５
歯学部	歯学科	４０	３４	８５．０
看護福祉学部	看護学科	１１８	９１	７７．１
	臨床福祉学科	７３	３５	４７．９
心理科学部	臨床心理学科	６８	５０	７３．５
	言語聴覚療法学科	４０	３９	９７．５
大学全体		４５１	３４７	７６．９

■学部別回答数（ｎ＝347）



１．調査概要

■学士課程教育において修得すべき知識・能力

「専門知識、技術」「倫理観」「協調性」等、修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、全ての学部で概ね成果があった。

○「修得すべき知識・能力」:「A　幅広い教養」「B　豊かな人間性」「C　専門知識、技術」「D　倫理観」「E　自己研鑽能力」「F　協調性」「G　コミュニケーション能力」「H　自主性・創造性」「I　地域的・国際的な視野」「J　語学力」「K　情報処理技能能力」

○選択肢「４．身についた　３．概ね身に付いた　２．あまり身に付かなかった　１．身に付かなかった」

下記の通り、「４　身についた」と「３　概ね身についた」と回答した比率の合計で各項目を比較すると、「専門知識、技術」「倫理観」「協調性」など、各学部が修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、非常に高い割合となっていた。ただし、11 項目のうち、「Ｊ　語学力」「Ｉ　地域的・国際的な視野」「Ｋ　情報処理技能能力」の 3 項目については、学部によって若干の差異はあるものの総じて比較的低い数値となった。

○学部別上位 3 項目（下表参照）

薬　学　部：「Ｃ　専門知識、技術」「Ｄ　倫理観」「Ｆ　協調性」
歯　学　部：「Ｃ　専門知識、技術」「Ｄ　倫理観」「Ｆ　協調性」「Ｅ　自己研鑽能力」「Ｇ　コミュニケーション能力」「Ａ　幅広い教養」「Ｂ　豊かな人間性」（同率 3 位 5 項目）
看護福祉学部：「Ｄ　倫理観」「Ｆ　協調性」「Ｃ　専門知識、技術」「Ｇ　コミュニケーション能力」「Ｂ　豊かな人間性」（同率 3 位 3 項目）
心理科学部：「Ｃ　専門知識、技術」「Ｄ　倫理観」「Ｇ　コミュニケーション能力」

○学部別下位 3 項目

薬　学　部：「Ｋ　情報処理技能能力」「Ｉ　地域的・国際的な視野」「Ｊ　語学力」
歯　学　部：「Ｋ　情報処理技能能力」「Ｉ　地域的・国際的な視野」「Ｊ　語学力」
看護福祉学部：「Ｉ　地域的・国際的な視野」「Ｋ　情報処理技能能力」「Ｊ　語学力」
心理科学部：「Ｋ　情報処理技能能力」「Ｉ　地域的・国際的な視野」「Ｊ　語学力」

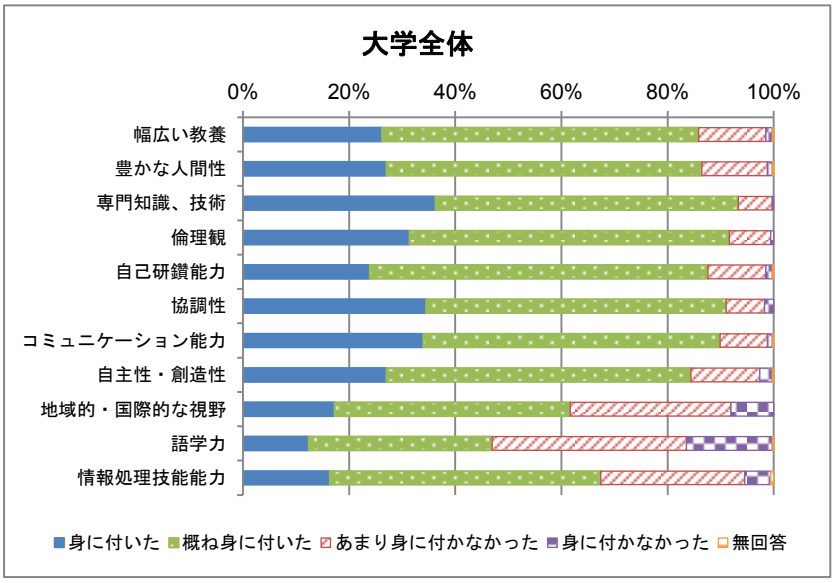
○学部別・比率順一覧（単位：％）

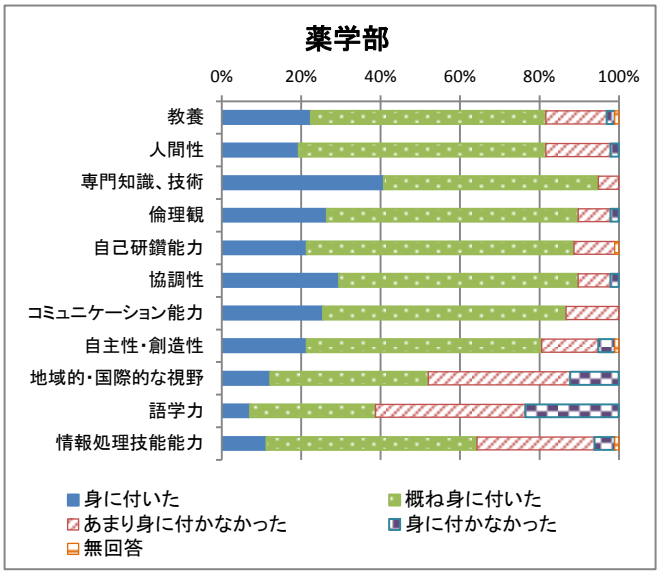
薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部	
C 専門知識、技術	95	C 専門知識、技術	94	D 倫理観	96	C 専門知識、技術	90
D 倫理観	90	D 倫理観		F 協調性		D 倫理観	87
F 協調性		F 協調性	91	C 専門知識、技術	94	G ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	
E 自己研鑽能力	89	E 自己研鑽能力		G ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力		A 幅広い教養	85
G ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	87	G ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力		B 豊かな人間性		F 協調性	
A 幅広い教養	82	A 幅広い教養		E 自己研鑽能力	93	B 豊かな人間性	80
B 豊かな人間性		B 豊かな人間性		H 自主性・創造性	90	H 自主性・創造性	
H 自主性・創造性	81	H 自主性・創造性	88	A 幅広い教養	88	E 自己研鑽能力	78
K 情報処理能力	64	K 情報処理能力	76	Ｉ地域的･国際的視野	72	K 情報処理能力	60
Ｉ地域的・国際的視野	52	Ｉ地域的・国際的視野		K 情報処理能力	71	Ｉ地域的･国際的視野	52
J 語学力	39	J 語学力	59	J 語学力	56	J 語学力	40

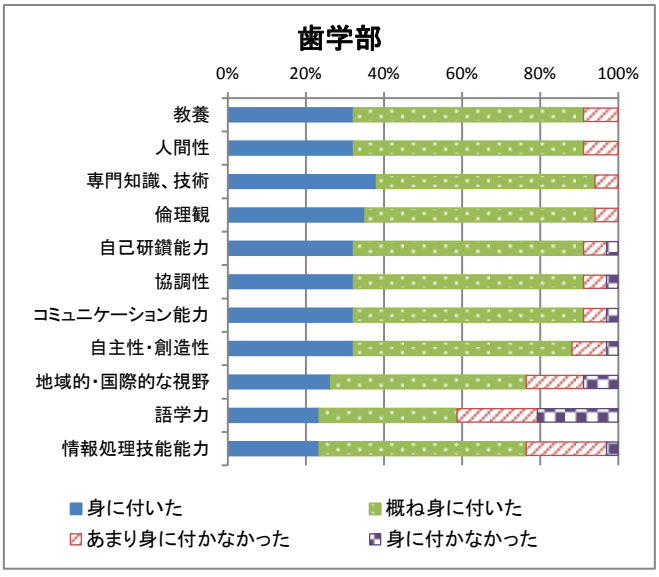
PART-2 の卒業生・修了生アンケート調査結果では、「在学中にもっとしておけばよかったこと、身につけたかった能力」として「語学力」と回答した卒業生が 19.6％と 2 番目に多く、また「在学中に身についた知識・能力」の質問に対して「語学力」「ＩＴ活用能力」「地域的・国際的な視野」がそれぞれ 5％前後と低く、上記内容と対応する結果となっている。

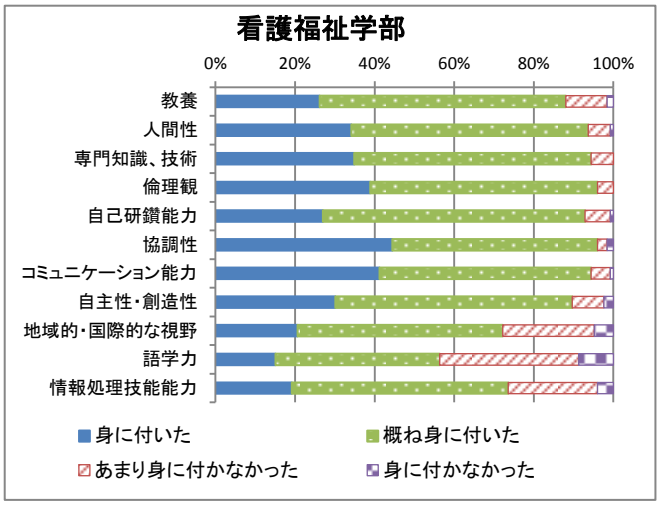
なお、修得すべき知識・能力として各学部が掲げている「地域的・国際的な視野」については、全ての学部で「地域連携」を全学教育科目として開講しており、また、平成 27 年度から薬学部で新カリキュラムが施行され、国際的視野を持つ医療人育成のため「グローバルコミュニケーション」（全学年対象）

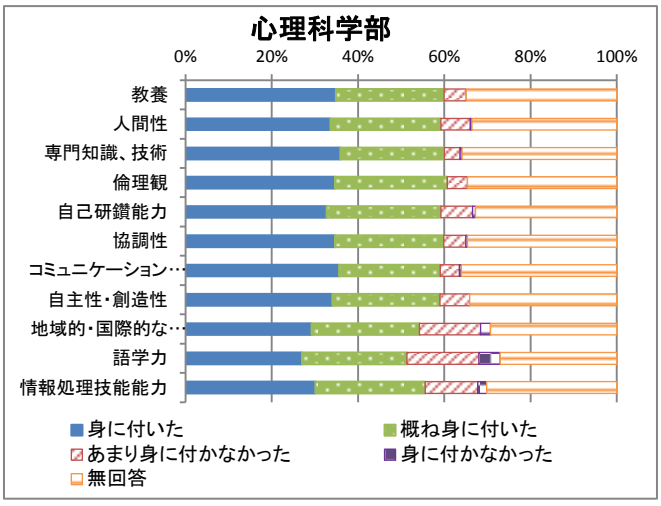
を、地域社会に貢献できる医療人養成のための「医療福祉活動演習」（2 年～6 年対象）をそれぞれ開講している。次に「語学力」については、全学部を対象とする語学研修の実施、歯学部における英語教育の充実や学生の海外提携大学への派遣に取り組んでいる。また、看護福祉学部は地域と国際社会において活躍できる能力を養うことを目指しカリキュラムを編成している。心理科学部は、基礎教育で上級学年にも英語科目を配当する等、外国語科目に力を入れている。今後の調査で、これらの教育の成果が具体的な数字としても表れることを期待する。











■授業科目の満足度

全学教育科目は、歯学部・看護福祉学部で特に満足度が高かった。 専門教育科目は、全学部で満足度が高かった。

１．全学教育科目−「教養教育」「基礎教育」「医療基盤教育」の３つの分野で構成

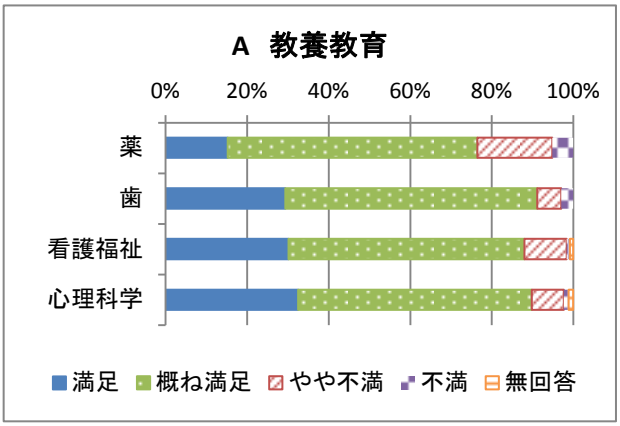
○項　目「Ａ　教養教育」「Ｂ　基礎教育」「Ｃ　医療基盤教育」「Ｄ　カリキュラム全体」

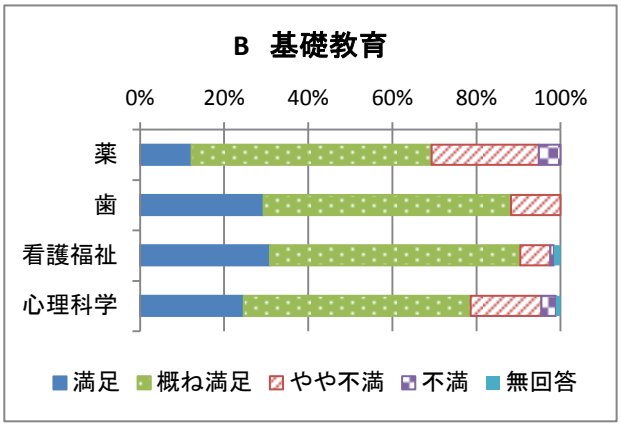
○選択肢「４．満足」「３．概ね満足」「２．やや不満」「１．不満」

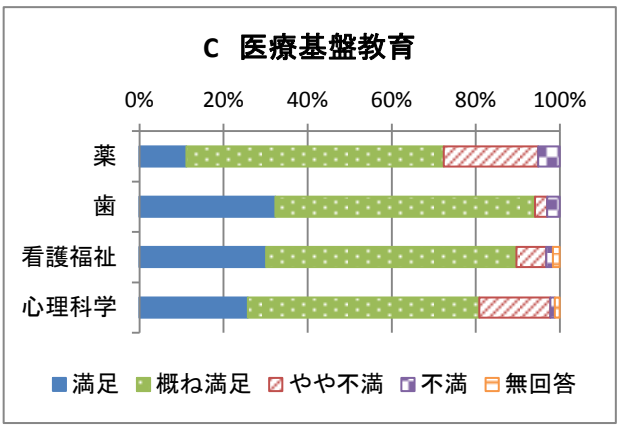
「満足」と「概ね満足」と回答した人数の割合（以下、「満足度」と表記）は、下表のとおりである。カリキュラム全体としては歯学部、看護福祉学部は 90%以上と満足度が高いが、薬学部はすべての分野で他学部と比較して低く、「２．やや不満」と「１．不満」の比率が 22.4%(22 名)であった。

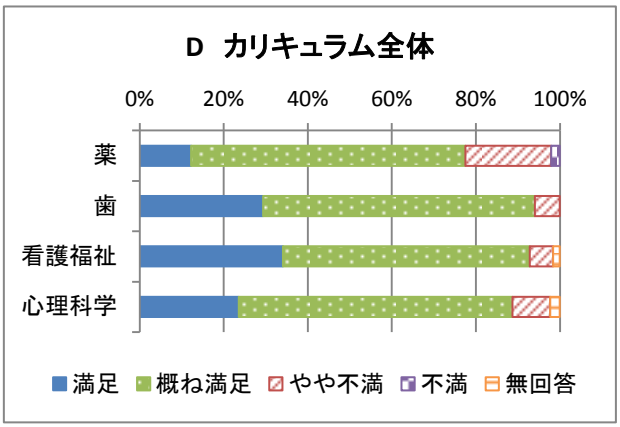
（単位：%）

項目 / 学部等	Ａ教養教育	Ｂ基礎教育	Ｃ医療基盤教育	Ｄカリキュラム全体
大学全体	８５．６	８１．２	８３．０	８７．６
薬学部	７６．５	６９．４	７２．４	７７．６
歯学部	９１．１	８８．２	９４．１	９４．１
看護福祉学部	８８．１	９０．５	８９．７	９２．９
心理科学部	８９．９	７８．７	８０．９	８８．８









２．専門教育科目

○項　目　各学部の専門教育科目の分類による。

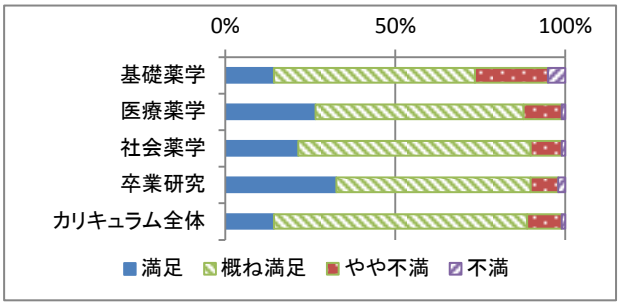
○選択肢「４．満足」「３．概ね満足」「２．やや不満」「１．不満」

「４．満足」と「３．概ね満足」と回答した割合は、下記の各表のとおりである。全学部でカリキュラム全体としての授業内容の満足度は高い比率であった（大学全体：89.9%）。

●薬学部

カリキュラム全体としての授業内容の満足度は 88.8%であった。しかし、基礎薬学科目の満足度はおよそ 74%と他の項目と比較して低かった。

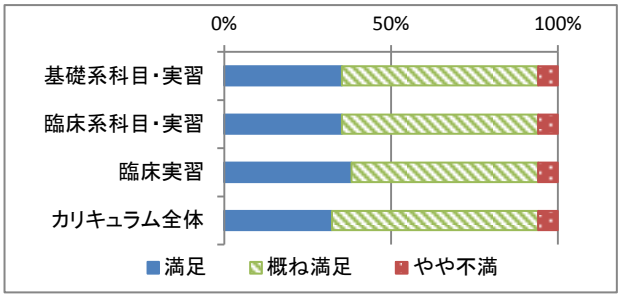
A 基礎薬学	B 医療薬学	C 社会薬学	D 卒業研究	E ｶﾘｷｭﾗﾑ全体
７３．５	８７．８	８９．８	８９．８	８８．８



●歯学部

カリキュラム全体及び分野別の授業内容の満足度はいずれも 94%と高く、“不満”という回答はゼロであった。

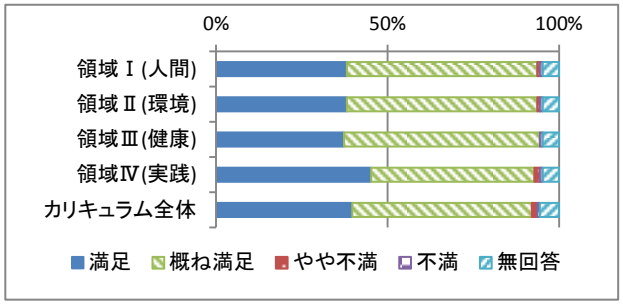
A 基礎系科目・実習	B 臨床系科目・実習	C 臨床実習	D カリキュラム全体
９４．１	９４．１	９４．１	９４．１



●看護福祉学部

カリキュラム全体・分野別の授業内容の満足度はいずれも 92%以上と高かった。

A 領域Ⅰ（人間）	B 領域Ⅱ（環境）	C 領域Ⅲ（健康）	D 領域Ⅳ（実践）	E ｶﾘｷｭﾗﾑ全体
９３．７	９３．７	９４．４	９２．９	９２．１

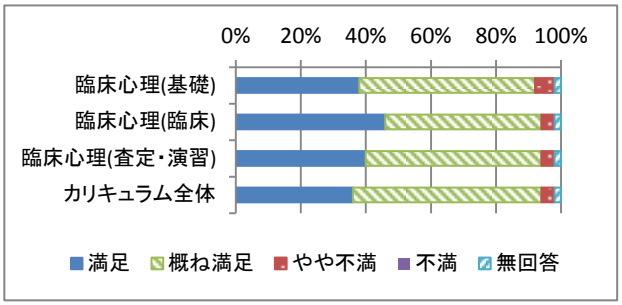


●心理科学部

ア）臨床心理学科（ｎ＝50）

カリキュラム全体・分野別の授業内容の満足度はいずれも 92%以上と高かった。

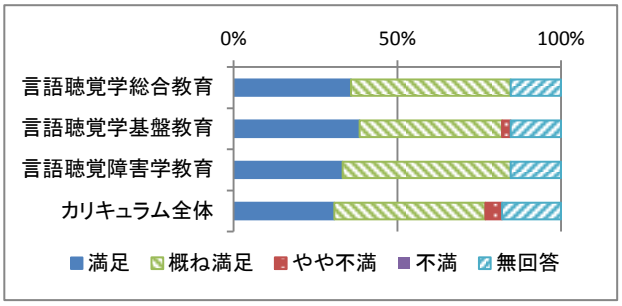
A 臨床心理（基礎）	B 臨床心理（臨床）	C 臨床心理(査定・演習)	D カリキュラム全体
９２．０	９４．０	９４．０	９４．０



イ）言語聴覚療法学科（ｎ＝39）

カリキュラム全体の満足度はおよそ 77%であったが、分野別ではいずれも 82%以上の満足度であった。なお、この設問における無回答が他学部等より比較的多く（回答者の 15%：6 名）、それに伴って各項目の数値も低いものとなった。

A 言語聴覚学総合教育	B 言語聴覚学基盤教育	C 言語聴覚障害学教育	D カリキュラム全体
８４．６	８２．１	８４．６	７６．９



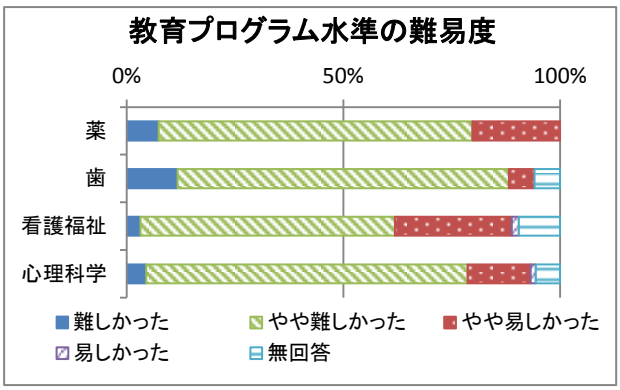
■教育プログラムの水準

○選択肢「４．難しかった」「３．やや難しかった」「２．やや易しかった」「１．易しかった」

「４．難しかった」と「３．やや難しかった」と回答した比率は、下表のとおりである。

また、「２．やや易しかった」と回答した学生は、看護福祉学部 34 名・27.0%、薬学部では 19 名・19.4%、心理科学部 13 名・14.6%であった。

薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部
７６．５	８８．２	６１．９	７８．７



■自由記述(件数)

	「修得すべき知識、能力」の他に身に付けた成果	授業内容・カリキュラムの良い点・不満な点	教育内容や大学への要望
薬学部	8	23	24
歯学部	1	0	1
看護福祉学部	7	4	10
心理科学部	10	4	3

Ⅱ．大学院・研究科

■回答率

大学院・研究科		修了生数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
薬学研究科	薬学専攻（博士）	１（博士）	１	１００
歯学研究科	歯学専攻（博士）	１０（博士）	７	７０．０
看護福祉学研究科	看護学専攻	１５(修士)	１３	８６．７
	臨床福祉学専攻	２（修士）	１	５０．０
心理科学研究科	臨床心理学専攻	１１（修士） ３（博士）	１１ ３	１００ １００
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学研究科	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学専攻	３（修士）	３	１００
大学院全体	修士・博士前期課程 博士・博士後期課程	３１ １４	２８ １１	９０．３ ７８．８

１　大学院の調査概要

■修士課程と博士課程別の修得すべき知識・能力

問２で在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたか質問した。

○修得すべき知識・能力　下記の表参照

○選択肢

「４．身についた」「３．概ね身についた」「２．あまり身につかなかった」「１．身につかなかった」

修士・博士それぞれの課程で修得すべき知識・能力として各研究科で特に重視している項目について、概ね成果があった。

修士課程では修得すべき知識・能力について、概ね修得された。学部の結果と同様に「Ｆ　国際的な視野」が 57.1%（看護福祉学研究科 9 名・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学研究科 2 名・心理科学研究科 1 名）と低く、「Ｃ　チーム医療への対応」も 78.6%であった。一方、自己研鑽能力が「４．身についた」とする回答者が多く成果が表れている。博士課程では、全ての項目で高い比率となっており、成果があった。

（１）修士課程修了者（ｎ=28）

知識・能力 ＼ 評価	４	３	２	１	合計（4+3）%
Ａ問題発見能力および解決能力	８	１７	２	１	８９．３
Ｂ高度専門職能の基礎となる学識	９	１６	３		８９．３
Ｃチーム医療への対応	８	１４	５	１	７８．６
Ｄ社会に貢献できる能力	８	１７	３	１	８９．３
Ｅコミュニケーション能力	５	２０	３		８９．３
Ｆ国際的な視野	３	１３	１１	１	５７．１
Ｇ高い倫理観	１０	１３	５		８２．１
Ｈ自己研鑽能力	１６	１１	１		９６．４

（2）博士課程修了者（n=11）

知識・能力 ＼ 評価	4	3	2	1	合計（4+3）%
A研究計画能力と研究実践能力	5	6			１００
B研究競争力と問題処理能力	5	6			１００
C高度専門知識	5	5			９０．９（他無回答１）
Dコミュニケーション能力	4	7			１００
E国際的な視野と行動力	4	6		1	９０．９
F責任性と高い倫理観	4	6	1		９０．９
G知的技術者（実践技術者）能力	4	7			１００
H指導者的能力	3	6	2		８１．８
I自己研鑽能力	5	6			１００
J論文作成能力	3	8			１００

■教育プログラム全体の達成度

○選択肢　「4．達成した」「3．概ね達成した」「2．あまり達成しなかった」「1．達成しなかった」

教育プログラムの達成度は全般的に概ね高い比率となっているものの、修士課程で「達成しなかった」と3名の回答があった。

課程 ＼ 評価	4	3	2	1	合計（4+3）%
修士課程	6	１９		3	８９．３
博士課程	5	5			９０．９（他無回答１）

■修了後の進路選択に関する所属研究科の教育プログラムの有用度

○選択肢「4．有用であった」「3．概ね有用であった」「2．あまり有用でなかった」「1．有用でなかった」

教育プログラムの有用度は概ね高い比率となっているものの、「あまり有用でなかった」と5名の回答があった。

課程 ＼ 評価	4	3	2	1	合計（4+3）%%
修士課程	１３	１１	4		８５．７
博士課程	6	3	1		８１．８（他無回答１）

■教育プログラムの水準

○選択肢「4．難しかった」「3．やや難しかっ た」「2．やや易しかった」「1．易しかった」

「やや難しかった」と回答した比率が高かった。

課程 ＼ 評価	4	3	2	1	合計（4+3）%
修士課程	2	２２	2	1	８５．７（他無回答１）
博士課程	2	6	2		７２．７（他無回答１）

■自由記述(件数)

	「修得すべき知識、能力」の他に身に付けた成果	授業内容・カリキュラムの良い点・不満な点	教育内容や大学への要望
薬学研究科	1	1	1
歯学研究科	0	0	0
看護福祉学研究科	2	5	9
心理科学研究科	0	4	1
リハビリテーション科学研究科	1	1	2

2016 年 3 月卒業予定者用

北海道医療大学の教育に関するアンケート

本調査は北海道医療大学の卒業予定者を対象とし、点検評価全学審議会が実施するアンケートです。北海道医療大学の学士課程教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。

回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

問１．あなたが卒業した学部・学科について、該当する番号に○を付けてください。

１　薬学部　２　歯学部　３　看護福祉学部（看護学科）　４　看護福祉学部（臨床福祉学科）

５　心理科学部（臨床心理学科）　６　心理科学部（言語聴覚療法学科）

問２　在学中、「学士課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。

以下のことについて、それぞれ４段階で○を付けてください。

４．身についた　３．概ね身に付いた　２．あまり身に付かなかった　１．身に付かなかった				
A　幅広い教養	4	3	2	1
B　豊かな人間性	4	3	2	1
C　専門知識、技術	4	3	2	1
D　倫理観	4	3	2	1
E　自己研鑽能力	4	3	2	1
F　協調性	4	3	2	1
G　コミュニケーション能力	4	3	2	1
H　自主性・創造性	4	3	2	1
I　地域的・国際的な視野	4	3	2	1
J　語学力	4	3	2	1
K　情報処理技能能力	4	3	2	1

問３　上記以外に身に付いたと思う成果を記載してください。

問４　全学教育科目の授業内容の満足度について、それぞれ４段階で○を付けてください。

４．満足　３．概ね満足　２．やや不満　１．不満				
A　教養教育科目（基礎ゼミナール、人間と思想、人間と文化等）	4	3	2	1
B　基礎教育科目（外国語、健康・運動科学、情報科学、自然科学等）	4	3	2	1
C　医療基盤教育科目（個体差健康科学、地域連携、医療倫理等）	4	3	2	1
D　カリキュラム全体	4	3	2	1

問５　当該学部の専門教育科目の授業内容の満足度について、それぞれ４段階で○を付けてください。

４．満足　　３．概ね満足　　２．やや不満　　１．不満

（１）薬学部

A　基礎薬学科目	4	3	2	1
B　医療薬学科目	4	3	2	1
C　社会薬学科目	4	3	2	1
D　卒業研究	4	3	2	1
E　カリキュラム全体	4	3	2	1

（２）歯学部

A　基礎系科目・実習	4	3	2	1
B　臨床系科目・実習	4	3	2	1
C　臨床実習	4	3	2	1
D　カリキュラム全体	4	3	2	1

（３）看護福祉学部（看護学科・臨床福祉学科）

A　領域Ⅰ（人間）科目	4	3	2	1
B　領域Ⅱ（環境）科目	4	3	2	1
C　領域Ⅲ（健康）科目	4	3	2	1
D　領域Ⅳ（実践）科目	4	3	2	1
E　カリキュラム全体	4	3	2	1

（４）①心理科学部（臨床心理学科）

A　臨床心理（基礎）科目	4	3	2	1
B　臨床心理（臨床）科目	4	3	2	1
C　臨床心理（査定・演習）科目	4	3	2	1
D　カリキュラム全体	4	3	2	1

②心理科学部（言語聴覚療法学科）

A　言語聴覚学総合教育科目	4	3	2	1
B　言語聴覚学基盤教育科目	4	3	2	1
C　言語聴覚学障害学教育科目	4	3	2	1
D　カリキュラム全体	4	3	2	1

問６　上記問４・問５で良い点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

問７　あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

４．難しかった　３．やや難しかった　２．やや易しかった　１．易しかった

問８　北海道医療大学で受けた教育のことや大学への要望することなどありましたら自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

2016 年 3 月修了予定者用

北海道医療大学大学院の教育に関するアンケート

本調査は北海道医療大学大学院の修了者を対象とし、点検評価全学審議会が実施するアンケートです。北海道医療大学の大学院教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。

回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

問１　あなたが修了した研究科・専攻・課程について、該当する番号・課程専攻に○を付けてください。

１　薬学研究科（修士課程・博士課程）　２　歯学研究科博士課程　３　看護福祉学研究科看護学専攻（修士課程・博士課程）　４　看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（修士課程・博士課程）

５　心理科学研究科臨床心理学専攻（修士課程・博士課程）　６　心理科学研究科言語聴覚学専攻（修士課程・博士課程）　７　リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程）

問２　在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。以下のことについて、該当する課程にそれぞれ４段階で○を付けてください。

４．身についた　３．概ね身に付いた　２．あまり身に付かなかった　１．身に付かなかった

問２－１　修士課程修了者にお尋ねします。

A　問題発見能力および解決能力	4	3	2	1
B　高度専門職能の基礎となる学識	4	3	2	1
C　チーム医療への対応	4	3	2	1
D　社会に貢献できる能力	4	3	2	1
E　コミュニケーション能力	4	3	2	1
F　国際的な視野	4	3	2	1
G　高い倫理観	4	3	2	1
H　自己研鑽能力	4	3	2	1

問２－２　博士課程修了者にお尋ねします。

A　研究計画能力と研究実践能力	4	3	2	1
B　研究競争力と問題処理能力	4	3	2	1
C　高度専門知識	4	3	2	1
D　コミュニケーション能力	4	3	2	1
E　国際的な視野と行動力	4	3	2	1
F　責任性と高い倫理観	4	3	2	1
G　知的技術者（実践技術者）能力	4	3	2	1
H　指導者的能力	4	3	2	1

Ｉ　自己研鑽能力	４	３	２	１
Ｊ　論文作成能力	４	３	２	１

問３　上記問２以外に身に付いたと思う成果を記載してください。

問４　あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体の達成度について、該当する番号に○を付けてください。

４．達成した　　３．概ね達成した　　２．あまり達成しなかった　　１．達成しなかった

問５　あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体について、良い点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

問６　あなたの修了後の進路選択に関し、所属している研究科、専攻等の教育プログラムの有用度について、該当する番号に○を付けてください。

４．有用であった　３．概ね有用であった　２．あまり有用でなかった　１．有用でなかった

問７　あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

４．難しかった　　３．やや難しかった　　２．やや易しかった　　１．易しかった

問８　北海道医療大学で受けた教育のことや大学への要望することなどありましたら自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

ＰＡＲＴ―２　卒業生・修了生アンケート調査集計結果

目　　的：卒業（修了）生に対して、在学中に身に付けた能力および資質並びに当該能力等の実社会での有用度、社会人として必要なこと等について、就職先等における社会経験に基づく意見を聴取し、本学の教育効果の検証に資することを目的とする。

質問内容：在学中の教育内容、キャリア支援、学生生活支援等

対 象 者：平成 20 年度から平成 24 年度卒業生・修了生（卒後３年から卒後７年の５年間）

調査時期：平成 28 年 8 月 8 日～8 月 31 日

調査方法：アンケート調査は、同窓会と連携し対象者に別紙案内書を郵送し、同窓会のホームページで告知し、Web サイトで回答をお願いした。

回 答 率：アンケートの回答率は、大学 8.4%・大学院 14.9%であり、回答率は、データの信頼性に係わるため、今後の調査において回答率を改善するための対策が必要である。

○大学学部（学科）

学部（学科）		送付数	回答者数	回答率（%）
薬学部	薬学科	２８５	２３	８．１
歯学部	歯学科	２７３	１７	６．２
看護福祉学部	看護学科	３３４	２３	６．９
	臨床福祉学科	３５	９	２５．７
心理科学部	臨床心理学科	９４	７	７．４
	言語聴覚療法学科	１７２	１８	１０．５
大学合計		１，１５７	９７	８．４

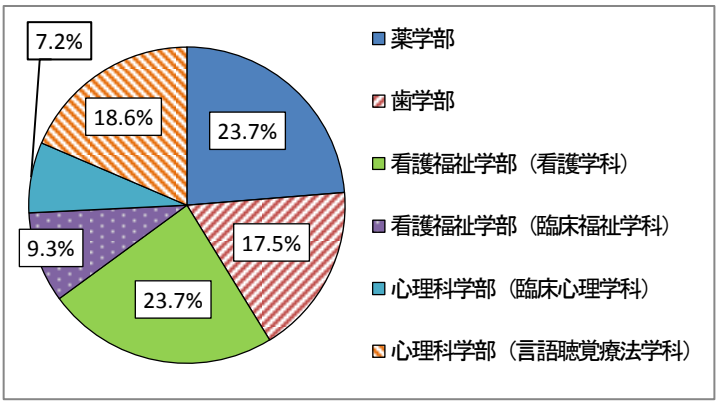
○大学院研究科

研究科		送付数	回答者数	回答率（%）
薬学研究科		１５	５	３３．３
看護福祉学研究科		４８	３	６．３
心理科学研究科		１１	３	２７．３
大学院合計		７４	１１	１４．９

１．大学の調査概要

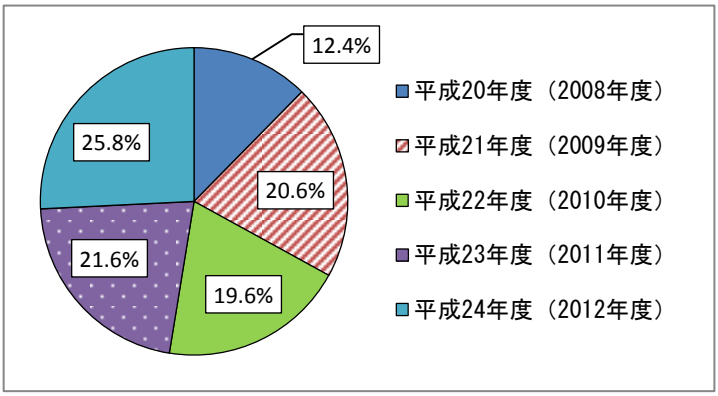
■Ⅰ．基本事項（Ｑ１からＱ８）

Ｑ１．卒業した学部



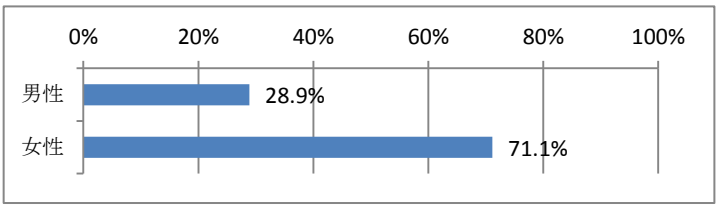
薬学部	23
歯学部	17
看護福祉学部(看護学科)	23
看護福祉学部(臨床福祉学科)	9
心理科学部(臨床心理学科)	7
心理科学部(言語聴覚療法学科)	18
計	97

Ｑ２．卒業年度



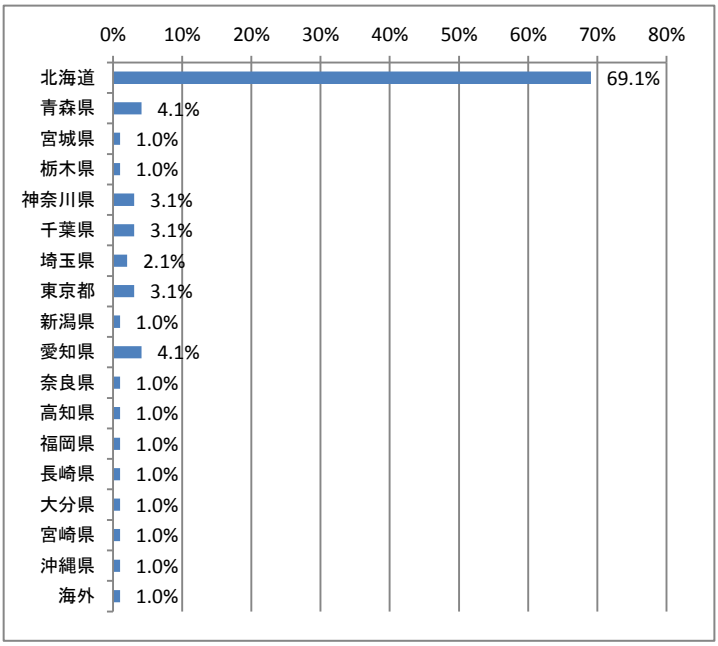
平成 20 年度(2008 年度)	12
平成 21 年度(2009 年度)	20
平成 22 年度(2010 年度)	19
平成 23 年度(2011 年度)	21
平成 24 年度(2012 年度)	25
計	97

Ｑ３．性別



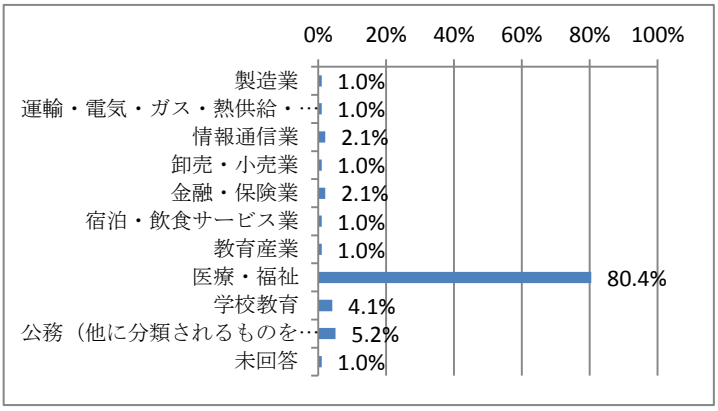
男性	28
女性	69
計	97

Q４．居住地



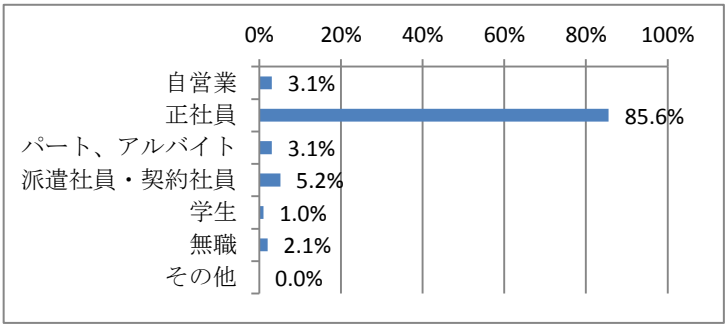
北海道	67
青森県	4
宮城県	1
栃木県	1
神奈川県	3
千葉県	3
埼玉県	2
東京都	3
新潟県	1
愛知県	4
奈良県	1
高知県	1
福岡県	1
長崎県	1
大分県	1
宮崎県	1
沖縄県	1
海外	1
計	97

Q５．現在の職業



製造業	1
運輸・電気・ガス・熱供給・水道業	1
情報通信業	2
卸売・小売業	1
金融・保険業	2
宿泊・飲食サービス業	1
教育産業	1
医療・福祉	78
学校教育	4
公務（他に分類されるものを除く）	5
未回答	1
計	97

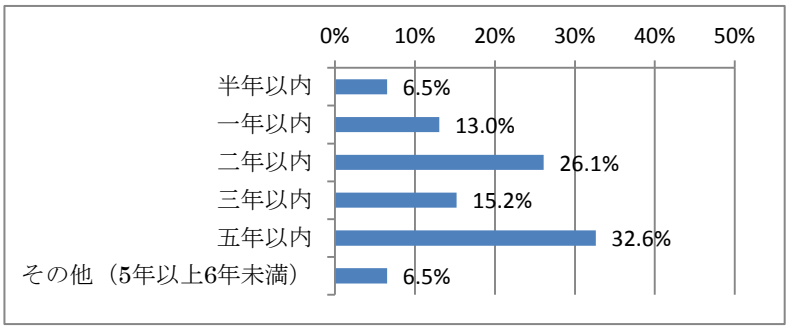
Q６．現在



自営業	3
正社員	83
パート、アルバイト	3
派遣社員・契約社員	5
学生	1
無職	2
その他	0
計	97

Ｑ７．転職在職期間

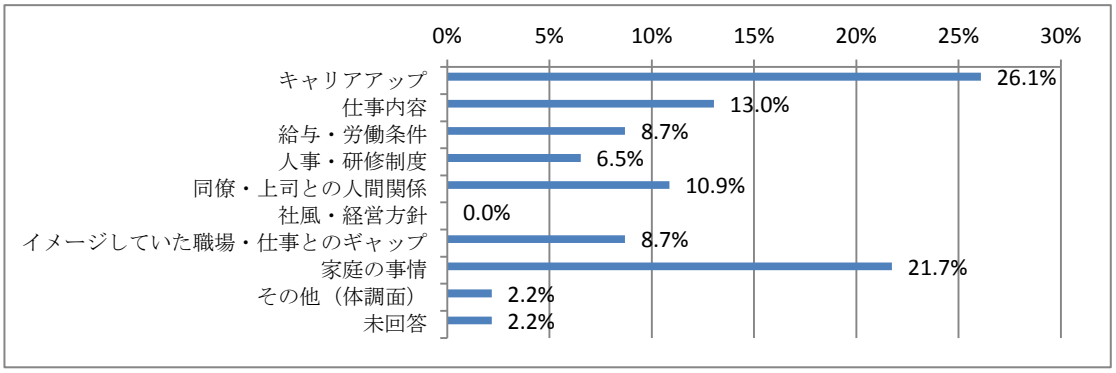
回答者 97 名のうち転職者は 46 名（47.4%）であった。



半年以内	3
一年以内	6
二年以内	12
三年以内	7
五年以内	15
その他(5 年以上 6 年未満)	3

Ｑ８．転職理由

○転職の主な理由として、キャリアアップ 26.1%と家庭の事情 21.7%であった。



キャリアアップ	12
仕事内容	6
給与･労働条件	4
人事･研修制度	3
同僚･上司との人間関係	5
社風･経営方針	0
イメージしていた職場･仕事とのギャップ	4
家庭の事情	10
その他(体調面)	1
未回答	1
計	46

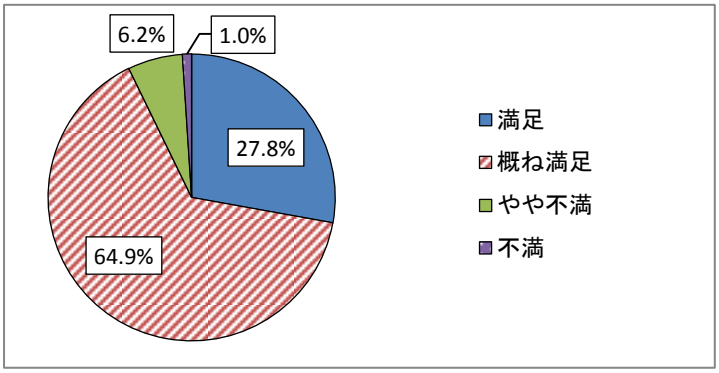
■Ⅱ．学生生活に対する満足度（Q9～Q13）

教育内容の満足度は、90%以上と高い

○教育内容全般の満足度 92.8%、学習や研究に関する施設設備等の満足度 86.6%、教員への質問や相談体制の満足度 83.5%と教育に関する満足度が高かった。

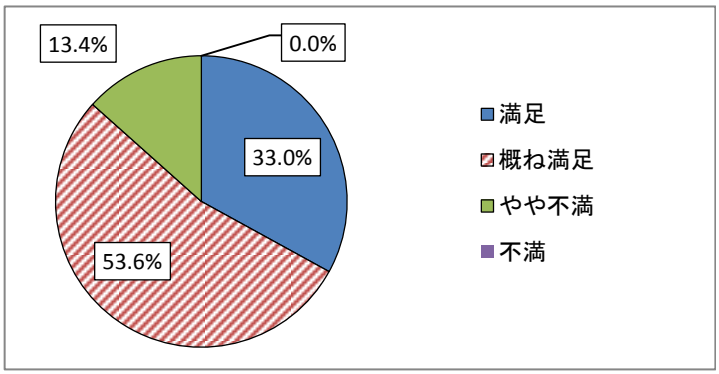
○満足度が低くはないが、学生生活全般に関する施設設備等の満足度 76.3%、就職活動への支援体制の満足度 71.1%であった。

Q９：教育内容全般に関する満足度



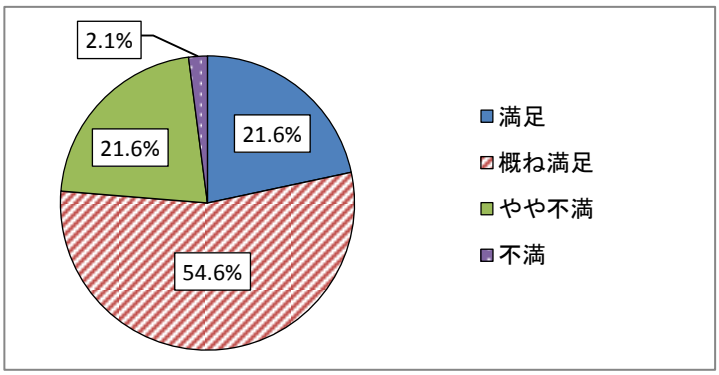
満足	27
概ね満足	63
やや不満	6
不満	1
計	97

Q10：学習や研究に関する施設、設備、備品に関する満足度



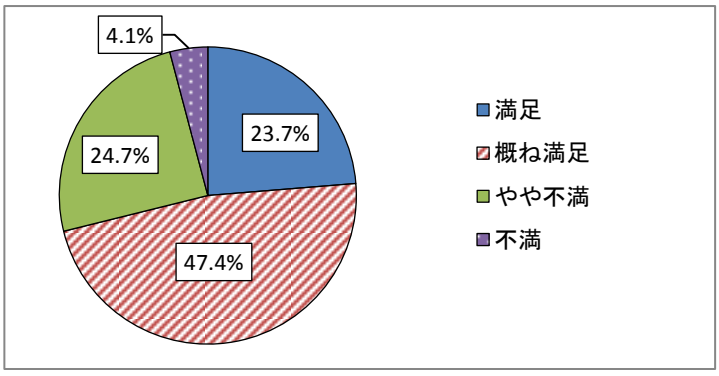
満足	32
概ね満足	52
やや不満	13
不満	0
計	97

Q11：学生生活全般に関する施設、設備、備品の満足度



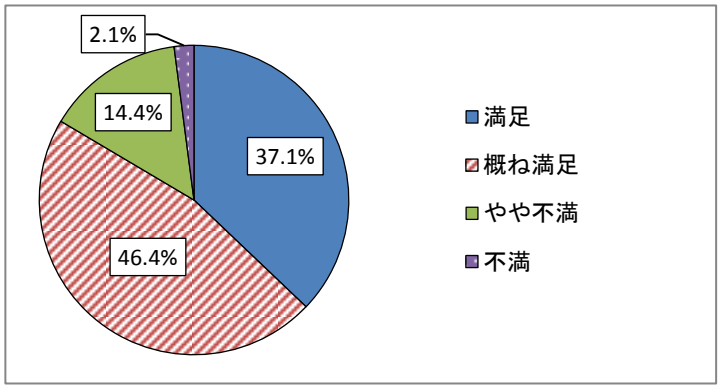
満足	21
概ね満足	53
やや不満	21
不満	2
計	97

Q12：就職活動への支援体制の満足度



満足	23
概ね満足	46
やや不満	24
不満	4
計	97

Q13：教員への質問や相談体制の満足度



満足	36
概ね満足	45
やや不満	14
不満	2
計	97

■Ⅲ．学生生活で感じたこと、身に付いたこと（Q14～Q18）

概ね教育成果が表れている

○学生生活によって、自分が良い方向に変わったかの質問に対し、「良いほうに変わった」と「概ね良いほうに変わった」と回答した合計が 90.7%と高い比率であった。

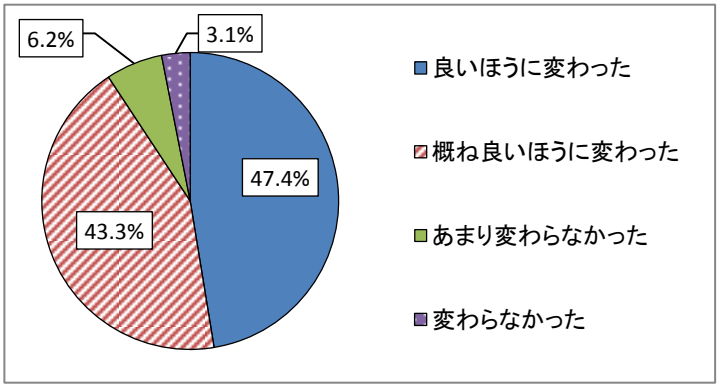
○在学中を通して身についた「専門知識、技術」83.5%「協調性」37.1%、「コミュニケーション能力」36.1%が上位であり、「地域的・国際的な視野」6.2%、「IT 活用能力」5.2%、「語学力」3.1%と低くかった。概ね PART-1 の卒業予定者と一致した回答である。

○国家資格と関連するが、特に仕事で学んだことや経験が役立っているかの質問に対し、「役立っている」と「概ね役立っている」と回答した合計が 90.7%と高く、教育の成果が表れている。

○在学中にもっとしておけば良かったことや身に付けておけば良かったことを 1 つ選択してもらった結果、「専門知識、技術」「語学力」「プレゼンテーション能力」と実務で求められる職務能力が上位であった。

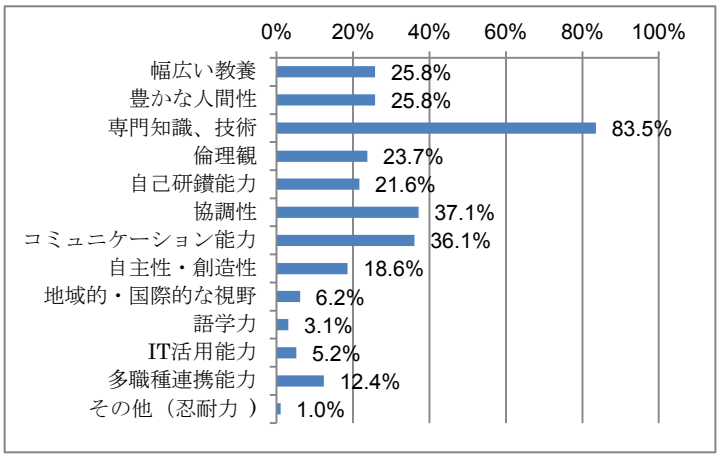
○PART-3 の就職先企業アンケートの調査結果では、身に付けていると回答した企業比率は「専門知識、技術」70.6%、「プレゼンテーション能力」32.4%、「語学力」2.9%と語学力の評価が低かった。

Q14：学生生活によって、自分が良い方向に変わったか



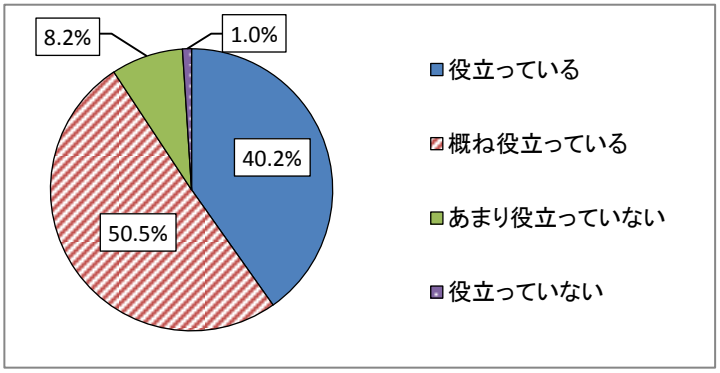
良いほうに変わった	46
概ね良いほうに変わった	42
あまり変わらなかった	6
変わらなかった	3
計	97

Q15：在学中を通して、身に付いたと思うものを選択（複数可）



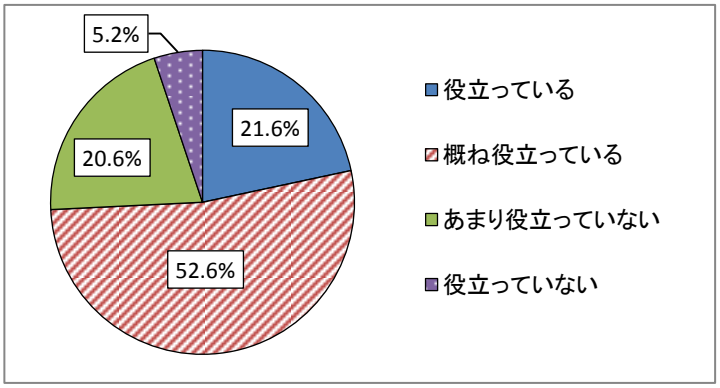
幅広い教養	25
豊かな人間性	25
専門知識、技術	81
倫理観	23
自己研鑽能力	21
協調性	36
コミュニケーション能力	35
自主性･創造性	18
地域的･国際的な視野	6
語学力	3
IT 活用能力	5
多職種連携能力	12
その他（忍耐力　）	1

Q16：特に仕事で、学んだことや経験が役に立っていると感じるか



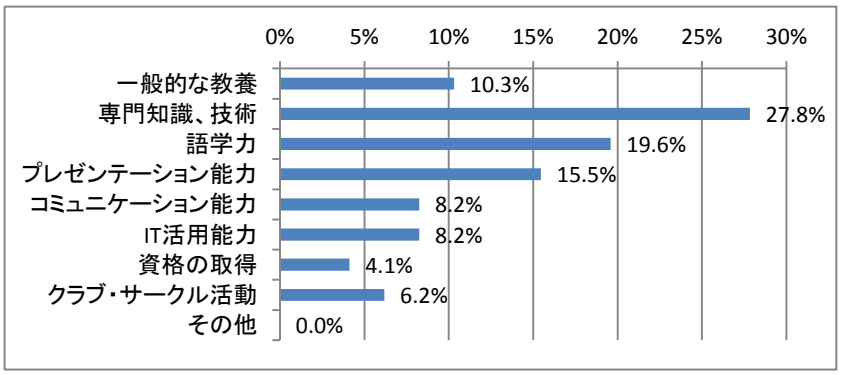
役立っている	39
概ね役立っている	49
あまり役立っていない	8
役立っていない	1
計	97

Q17：仕事以外の日常生活で、学んだことや、経験が役に立っていると感じるか



役立っている	21
概ね役立っている	51
あまり役立っていない	20
役立っていない	5
計	97

Q18：在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかった能力



一般的な教養	10
専門知識、技術	27
語学力	19
プレゼンテーション能力	15
コミュニケーション能力	8
IT 活用能力	8
資格の取得	4
クラブ・サークル活動	6
その他	0
計	97

■Ⅳ．本学に対する卒業生の感じていること（Q19～Q22）

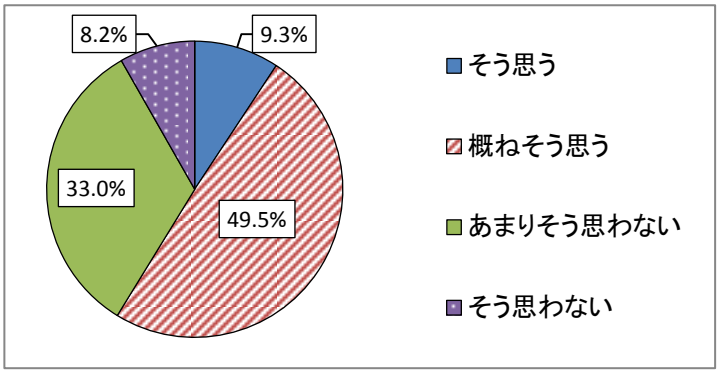
本学を卒業したことへの満足度は、90%以上と高い

○実社会においての本学の評価は高いと思うかの質問に対し、「そう思う」と「概ねそう思う」58.8%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」41.2%であった。

○本学を卒業したことへの満足度は 91.8%と非常に高い数値であった。一方周りの家族、知人への本学への推奨度は 75.3%であり、本学の社会的評価より増加しているが、満足度よりも減少している。

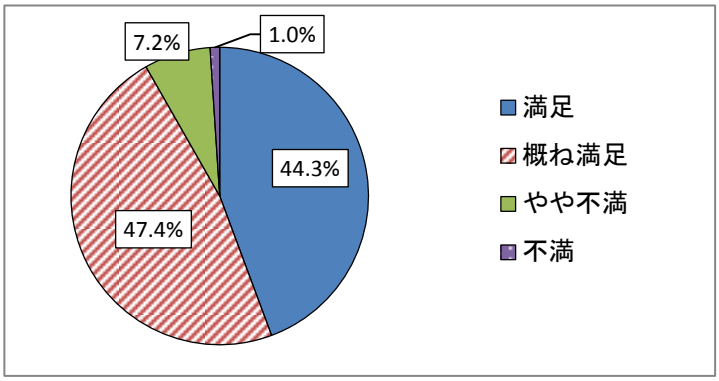
○在学中の教育や学生支援サービスで充実改善して欲しかった支援として、「施設の充実」37.1%、「専門科目の勉強」、「実習の充実」や「各業界・職種の説明」「インターンシップ」が上位であった。このことは、学生生活全般に関する施設設備等の満足度 76.3%、就職活動への支援体制の満足度 71.1%の結果と関連性が考えられる。

Q19．実社会において本学の評価は高いと思うか



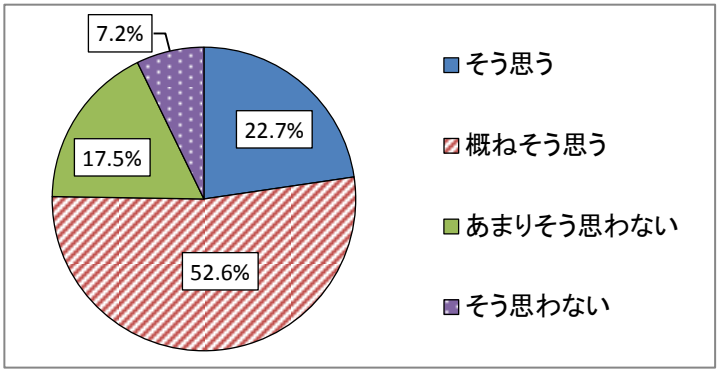
そう思う	9
概ねそう思う	48
あまりそう思わない	32
そう思わない	8
計	97

Q20. 本学を卒業したことに満足しているか



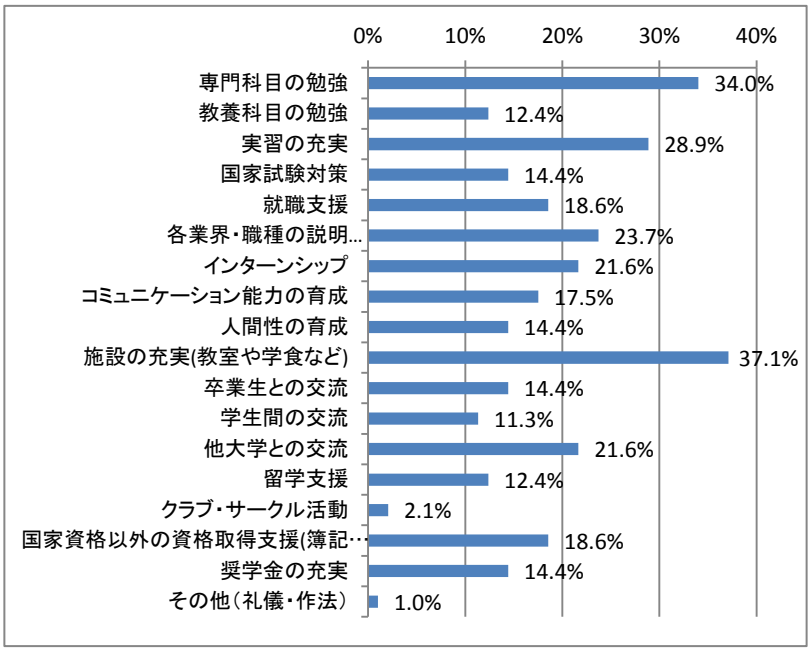
満足	43
概ね満足	46
やや不満	7
不満	1
計	97

Q21. 本学への進学を周りの家族・知人などに勧めたいと思うか



そう思う	22
概ねそう思う	51
あまりそう思わない	17
そう思わない	7
計	97

Q22. 在学中の教育や学生支援サービスで充実・改善して欲しかった支援について（複数可）



専門科目の勉強	33
教養科目の勉強	12
実習の充実	28
国家試験対策	14
就職支援	18
各業界・職種の説明 （キャリアビジョンや仕事内容など）	23
インターンシップ	21
コミュニケーション能力の育成	17
人間性の育成	14
施設の充実(教室や学食など)	36
卒業生との交流	14
学生間の交流	11
他大学との交流	21
留学支援	12
クラブ・サークル活動	2
国家資格以外の資格取得支援 （簿記や TOEIC など）	18
奨学金の充実	14
その他（礼儀・作法）	1

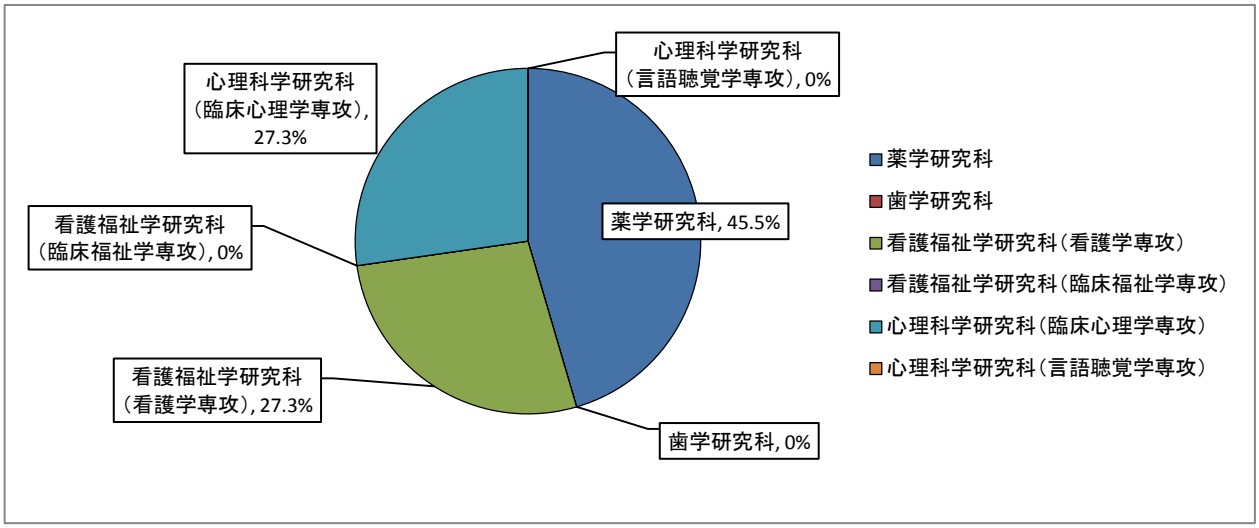
Q23. 本学をより良くするための要望や意見（自由記載）※件数

合計	14

２．大学院の調査概要

■Ⅰ．基本事項（Q1~Q6）

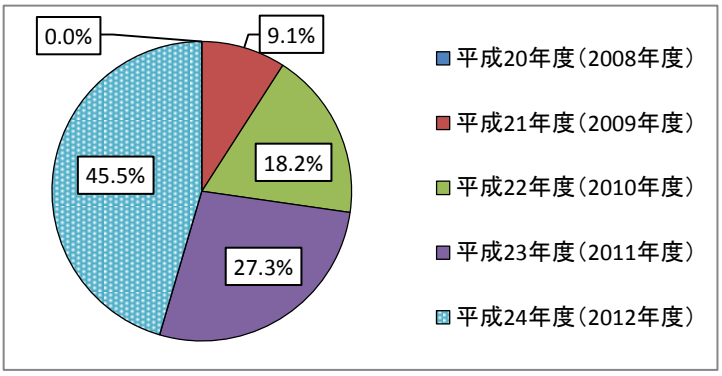
Q１．修了した研究科（専攻）



Q２．修了した課程

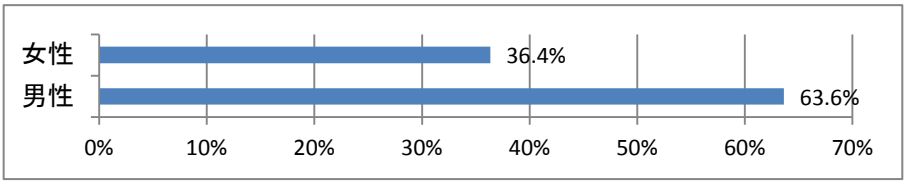
博士前期課程・修士課程	11

Q３．修了年度



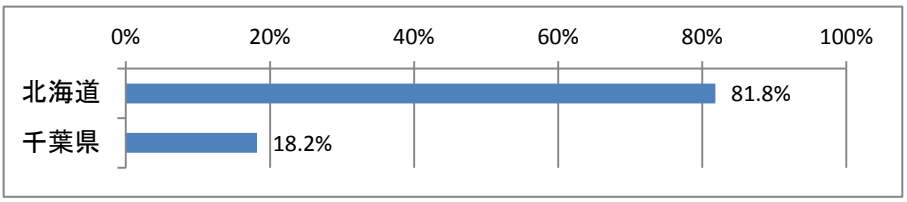
平成 20 年度（2008 年度）	0
平成 21 年度（2009 年度）	1
平成 22 年度（2010 年度）	2
平成 23 年度（2011 年度）	3
平成 24 年度（2012 年度）	5
計	11

Q４．性別



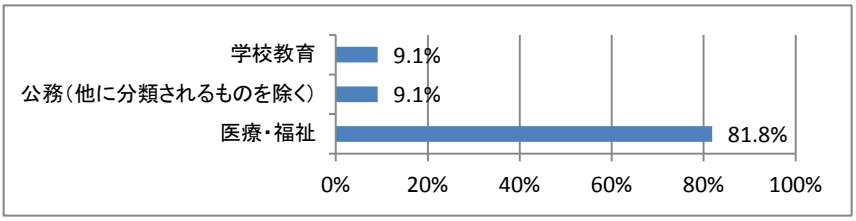
男性	7
女性	4

Ｑ５．居住地（都道府県）



北海道	9
千葉県	2

Ｑ６．職業（業種）



医療・福祉	9
公務 （他に分類されるものを除く）	1
学校教育	1

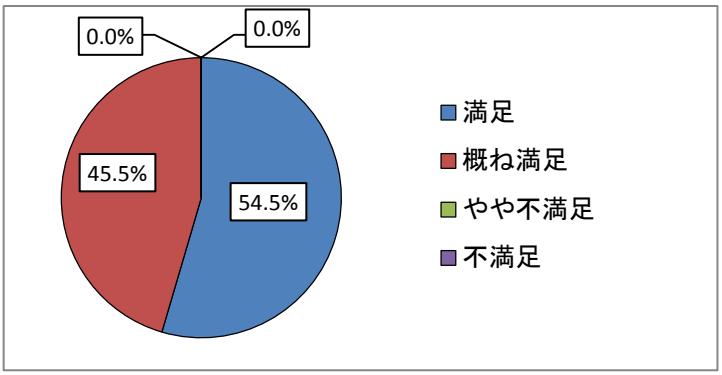
■Ⅱ．大学院生活に対する満足度について」（Ｑ7～Ｑ9）

教育内容の満足度は、100%と非常に高い

○教育内容の満足度の質問に対し、「満足 54.5%」と「概ね満足 45.5%」と 100%の回答であった。

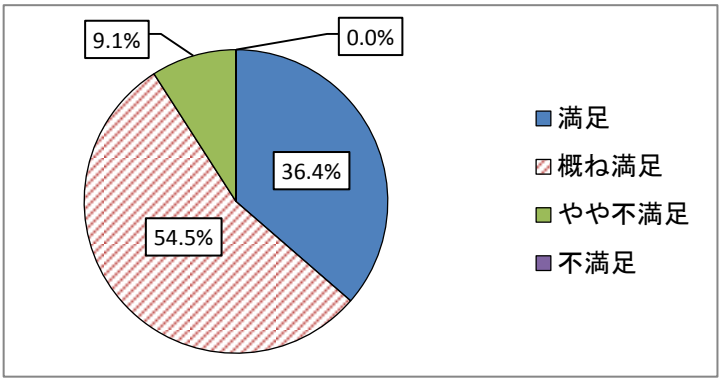
○教育・研究の施設設備の満足度は 90.1%であり、教員等への相談体制については 81.8%と「やや不満」や「不満」と回答した修了生がいた。

Ｑ７：教育内容全体としての満足度



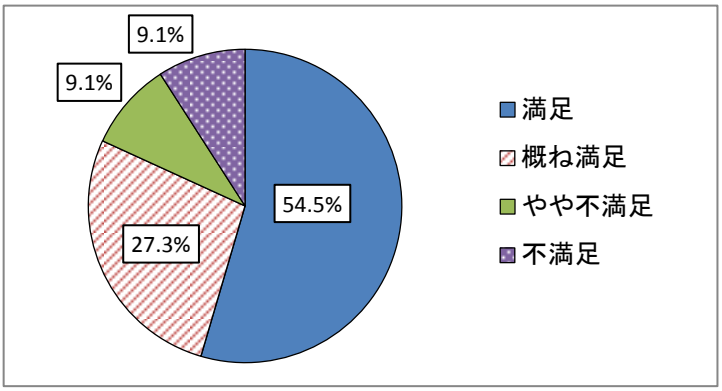
満足	6
概ね満足	5
やや不満足	0
不満足	0

Ｑ８：教育や研究に関する施設、設備、備品の満足度



満足	4
概ね満足	6
やや不満足	1
不満足	0

Ｑ９：教員等への質問や相談体制の満足度



満足	6
概ね満足	3
やや不満足	1
不満足	1

■Ⅲ．大学院生活で感じたこと、身に付いたこと（Ｑ10～Ｑ13）

修士課程で修得すべき知識・能力が概ね身につけている

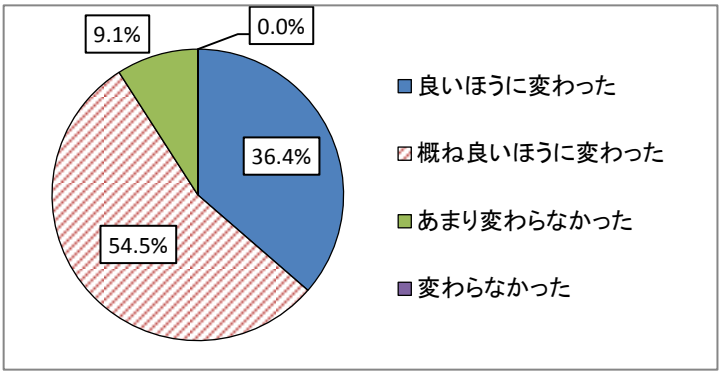
○「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」が身に付いたかの質問に対し、「良いほうに変わった」と「概ね良い方に変わった」と回答した者が 90.9%であった。

○身に付いた知識･能力は､「問題発見能力及び解決能力」「高度専門職能の基礎となる学識」各 81.8%と自己研鑽能力 72.7%と修士課程の修得すべき知識・能力が身についたことが評価できる。

○国際的な視野や高い倫理観などが特に低かったのが、PART-1 の大学院生の結果と比較して差異があった。

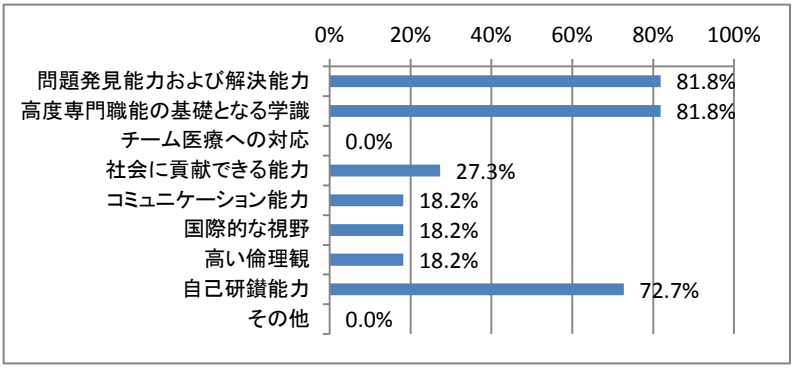
○本学の大学院で学んだことが実社会で役立っているかの質問に対し、90.1%が役立っていると評価している。

Q10：大学院教育において、修得すべき知識・能力がどの程度身についたか



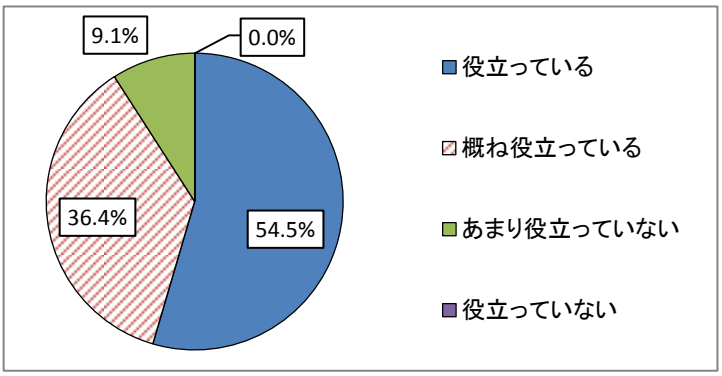
良いほうに変わった	4
概ね良いほうに変わった	6
あまり変わらなかった	1
変わらなかった	0

Q11：在学中の教育全体を通して、「身に付いた」と思うもの選択（複数可）



問題発見能力および解決能力	9
高度専門職能の基礎となる学識	9
チーム医療への対応	0
社会に貢献できる能力	3
コミュニケーション能力	2
国際的な視野	2
高い倫理観	2
自己研鑽能力	8
その他	0

Q12：実社会において、学んだことや、経験が役に立っているか



役立っている	6
概ね役立っている	4
あまり役立っていない	1
役立っていない	0

Q13：在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかったこと（自由記述）※件数

合計	6

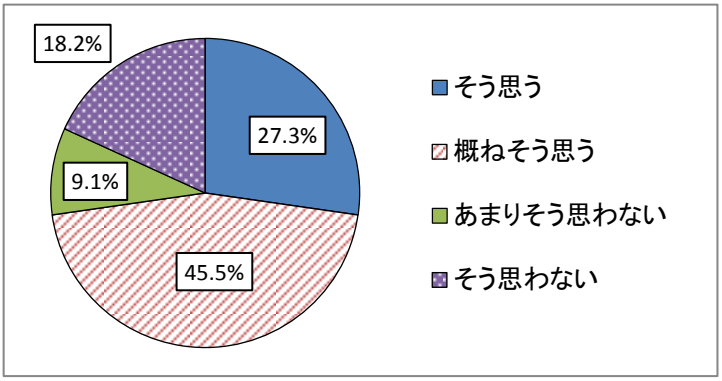
■Ⅳ．本学大学院に対する修了生の感じていること（Q14～Q16）

本学大学院の評価は高く、修了したことへの満足度も 100%と非常に高い

○実社会においての本学大学院の評価は高いと思うかの質問に対し、「そう思う」と「概ねそう思う」72.7%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」27.3%であった。
学部卒業生の実社会においての本学の評価について、「そう思う」と「概ねそう思う」58.8%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」41.2%と比較すると大学院教育の成果の表れと考えられる。

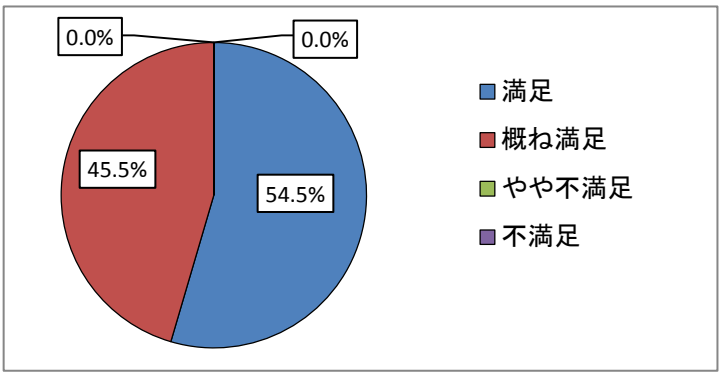
○本学大学院を修了したことへの満足度は、「満足 54.5%」「概ね満足 45.5%」と 100%であった。

Q14. 実社会において本学大学院の評価は高いか



そう思う	3
概ねそう思う	5
あまりそう思わない	1
そう思わない	2

Q15. 本学大学院を修了したことの満足度



満足	6
概ね満足	5
やや不満足	0
不満足	0

Q16. 本学における教育研究や学生支援サービスをより良くするための要望や意見（自由記述）※件数

合計	2

北海道医療大学　卒業生アンケート　【調査票】入力フォーム

Ⅰ．はじめに基本事項についてお聞きします。

Ｑ１：卒業した学部（学科）を教えてください。

１．薬学部　２．歯学部　３．看護福祉学部（看護学科）　４．看護福祉学部（臨床福祉学科）
５．心理科学部（臨床心理学科）　６．心理科学部（言語聴覚療法学科）

Ｑ２：卒業した年月を教えてください。

平成　　年　　月卒業

Ｑ３：性別について教えてください。

１．男性　２．女性

Ｑ４：現在お住まいの場所の都道府県名を教えてください。

Ｑ５：現在の職業（業種）について教えてください。（該当者のみ）

１．農林水産鉱業　２．建設業　３．製造業　４．運輸・電気・ガス・熱供給・水道業
５．情報通信業　６．卸売・小売業　７．金融・保険業　８．不動産業　９．宿泊・飲食サービス業　10．マスコミ・出版・広告　11．ソフトウェア・情報処理　12．教育産業
13．医療・福祉　14．その他サービス業　15．学校教育　16．公務（他に分類されるものを除く）　17．その他（　　）

Ｑ６．現在の働き方について教えてください。

１．自営業　２．正社員　３．パート、アルバイト　４．派遣社員・契約社員　５．学生
６．無職　　７．その他（　　）

Ｑ７．転職された方にお聞きします。卒業後どのくらいの期間で最初の就職先を転職されたか、教えてください。

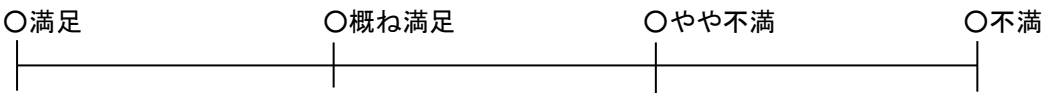
１．半年以内　２．一年以内　３．二年以内　４．三年以内　５．五年以内
６．その他（　　）

Ｑ８．転職した理由について、１つ選んでください。（該当者のみ）

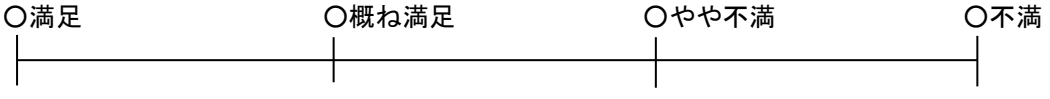
１．キャリアアップ　２．仕事内容　３．給与・労働条件　４．人事・研修制度　５．同僚・上司との人間関係　７．社風・経営方針　８．イメージしていた職場・仕事とのギャップ
９．家庭の事情　１０．その他（　　）

Ⅱ．学生生活に対する満足度についてお聞きします。

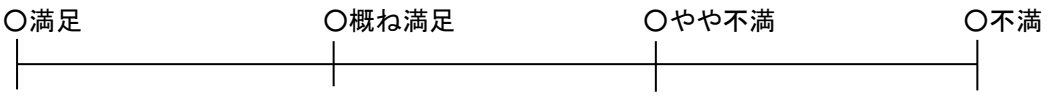
Ｑ９：教育内容は、全体として満足でしたか。



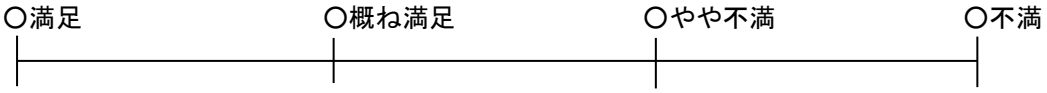
Ｑ10：学習や研究に関する施設、設備、備品は満足でしたか。



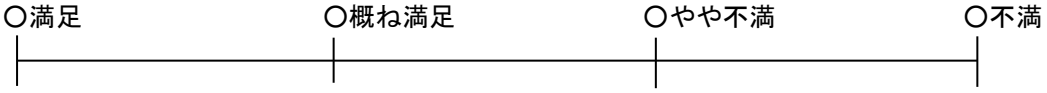
Q11：学生生活全般に関する施設、設備、備品は満足でしたか。



Q12：就職活動への支援体制は満足でしたか。

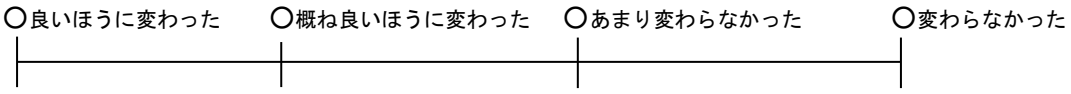


Q13：教員への質問や相談体制は満足でしたか。



Ⅲ．学生生活で感じたこと、身についたと思うことについてお聞きします。

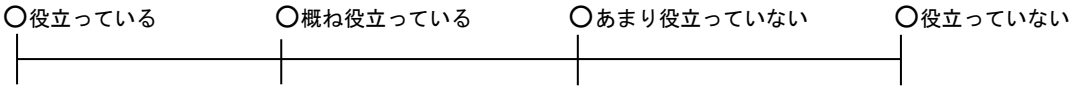
Q14：学生生活によって、自分が良い方向に変わったと思いますか。



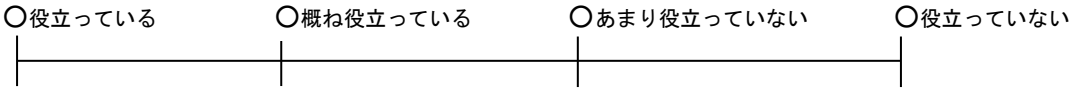
Q15：在学中の教育全体を通して、次のようなことが身についたと感じますか。身に付いたと思うものを選んでください。（複数可）

１．幅広い教養　２．豊かな人間性　３．専門知識、技術　　４．倫理観
５．自己研鑽能力　６．協調性　７．コミュニケーション能力　８．自主性・創造性
９．地域的・国際的な視野　10．語学力　11．IT 活用能力　12．多職種連携能力
13．その他（具体的に：　　）

Q16：特に仕事に係わることで、本学で学んだことや、大学での経験が役に立っていると感じますか。



Q17：仕事以外の日常生活の中で、本学で学んだことや、大学での経験が役に立っていると感じますか。



Q18：在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかった能力を１つ選んでください。

１．一般的な教養　２．専門知識、技術　３．語学力　４．プレゼンテーション能力
５．コミュニケーション能力　６．IT 活用能力　７．資格の取得　８．クラブ・サークル活動
９．その他（　　）

Ⅳ. 本学に対して卒業生の感じていることについてお聞きします。

Q19. 実社会において本学の評価は高いと思いますか。

〇そう思う　〇概ねそう思う　〇あまりそう思わない　〇そう思わない

Q20. 本学を卒業したことに満足していますか。

〇満足　〇概ね満足　〇やや不満足　〇不満足

Q21. 本学への進学を周りの家族・知人などに勧めたいと思いますか。

〇そう思う　〇概ねそう思う　〇あまりそう思わない　〇そう思わない

Q22. 社会人生活を通して大学在学中に教育や学生支援サービスで充実・改善して欲しかった支援について教えてください。(複数可)

1. 専門科目の勉強　2. 教養科目の勉強　3. 実習の充実　4. 国家試験対策　5. 就職支援　6. 各業界・職種の説明(キャリアビジョンや詳細な仕事内容など)　7. インターンシップ　8. コミュニケーション能力の育成　9. 人間性の育成　10. 施設の充実(教室や学食など)　11. 卒業生との交流　12. 学生間の交流　13. 他大学との交流　14. 留学支援　15. クラブ・サークル活動　16. 国家資格以外の資格取得支援(簿記やTOEICなど)　17. 奨学金の充実 18. その他（　　）

Q23. 本学をより良いものにしていくために、要望やご意見がありましたら、お聞かせください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

北海道医療大学大学院　修了生アンケート　【調査票】入力フォーム

Ⅰ．はじめに基本事項についてお聞きします。

Ｑ１：修了した研究科（専攻）について教えてください。

Ⅰ．薬学研究科　2．歯学研究科　3．看護福祉学研究科（看護学専攻）　4．看護福祉学研究科（臨床福祉学専攻）　５．心理科学研究科（臨床心理学専攻）　６．心理科学研究科（言語聴覚学専攻）

Ｑ２．修了した課程について教えてください。

１．博士前期課程・修士課程　　２．博士後期課程　　３．４年の博士課程

Ｑ３：修了した年月を教えてください。

平成　　年　　月　修了

Ｑ４：性別について教えてください。

１．男性　２．女性

Ｑ５：現在お住まいの場所の都道府県名を教えてください。

Ｑ６：現在の職業（業種）について教えてください。（該当者のみ）

１．農林水産鉱業　２．建設業　３．製造業　４．運輸・電気・ガス・熱供給・水道業　５．情報通信業　６．卸売・小売業　７．金融・保険業　８．不動産業　９．宿泊・飲食サービス業　10．マスコミ・出版・広告　11．ソフトウェア・情報処理　12．教育産業
13．医療・福祉　14．その他サービス業　15．学校教育　16．公務（他に分類されるものを除）
17．その他（　　）

Ⅱ．大学院生活に対する満足度についてお聞きします。

Ｑ７：教育内容について、全体として満足していますか。

４．満足　　３．やや満足　　２．やや不満　　１．不満

Ｑ８：教育や研究に関する施設、設備、備品は十分でしたか。

４．十分　　３．概ね十分　　２．やや不十分　　１．不十分

Ｑ９：教員等に気軽に質問や相談ができましたか。

４．十分できた　３．概ねできた　２．あまりできなかった　１．できなかった

Ⅲ．大学院生活で感じたこと、身についたと思うことについてお聞きします。

Q10：在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。

４．身についた　３．概ね身に付いた　２．あまり身に付かなかった　１．身に付かなかった

Q11：在学中の教育全体を通して、次のようなことが身についたと感じますか。身に付いたと思うものを選んでください。（複数可）

（修士課程修了者）

１．問題発見能力および解決能力　２．高度専門職能の基礎となる学識　３．チーム医療への対応　４．社会に貢献できる能力　５．コミュニケーション能力　６．国際的な視野　７．高い倫理観　８．自己研鑽能力　９．その他（具体的に：　　）

（博士課程修了者）

１．研究計画能力と研究実践能力　２．研究競争力と問題処理能力　３．高度専門知識 ４．コミュニケーション能力　５．国際的な視野と行動力　６．責任性と高い倫理観 ７．知的技術者（実践技術者）能力　８．指導者的能力　９．自己研鑽能力　10．論文作成能力 11．その他（具体的に：　　）

Q12：実社会において特に仕事に係わることで、本学大学院で学んだことや、経験が役に立っていると感じますか。

４．役立っている　　３．ある程度役立っている　　２．あまり役立っていない １．役立っていない

Q13：実社会の経験に照らして、在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかったことについて、ご記入ください。

Ⅳ．本学大学院に対して修了生の感じていることについてお聞きします。

Q14．実社会において本学大学院の評価は高いと思いますか。

４．そう思う　３．いくらかそう思う　２．あまりそう思わない　１．そう思わない

Q15．本学大学院を修了したことに満足していますか。

４．満足している　３．やや満足している　２．あまり満足していない　１．満足していない

Q16．今後、本学大学院における教育研究や学生支援サービスをより良いものにしていくために、要望やご意見がありましたら、お聞かせください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

PART-3　就職先企業アンケート調査集計結果

調査目的：本学の教育により習得した能力が社会においてどの程度役立っているのか、社会・企業等が求めている人材育成ができているのか、などについて評価・意見を聴取し、今後の本学における大学・大学院教育のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

調査時期：平成 28 年 8 月 8 日～8 月 31 日

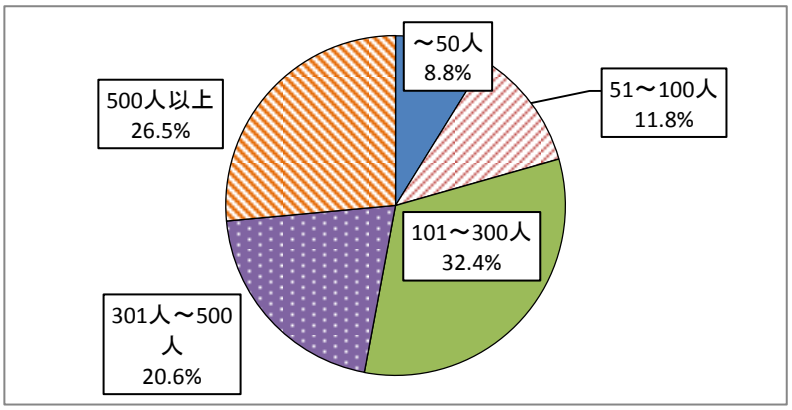
対象企業：過去 3 年間（平成 24 年度～平成 26 年度）で本学学生を 2 名以上採用している病院・福祉施設・企業等 127 社

調査方法：対象企業等に別紙案内書を郵送し、Web サイトでの回答を依頼した。

回答数：34 社（回答率 26.8%）

■Ⅰ．回答企業等の概要

1．従業員規模

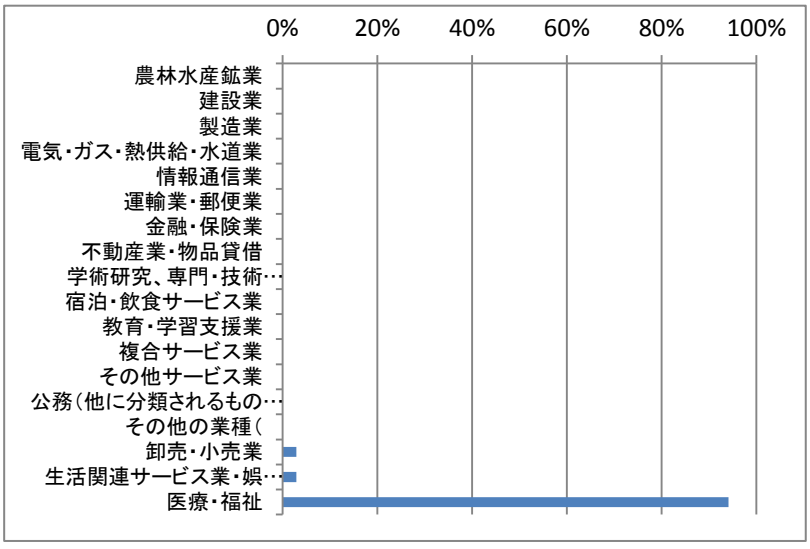


(社)

～50 人	3
51～100 人	4
101～300 人	11
301 人～500 人	7
500 人以上	9
計	34

2．業種

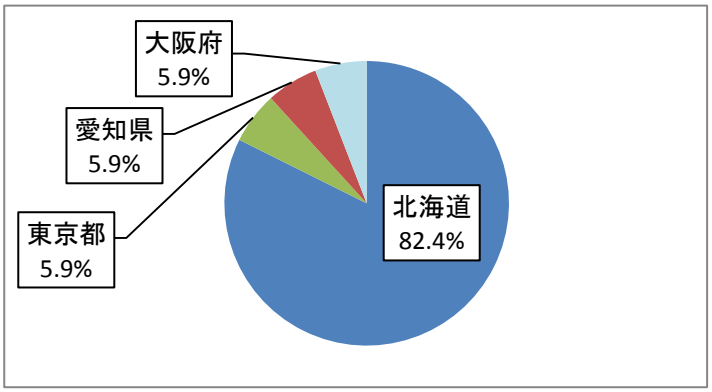
○本学は医療系大学であるため、アンケート調査の対象は病院・福祉施設等の医療福祉関連の企業等が多く、回答の業種も「医療・福祉」が 32 社 94.1%を占めた。



(社)

卸売・小売業	1
生活関連サービス業・娯楽業	1
医療・福祉	32

３．本社の所在地

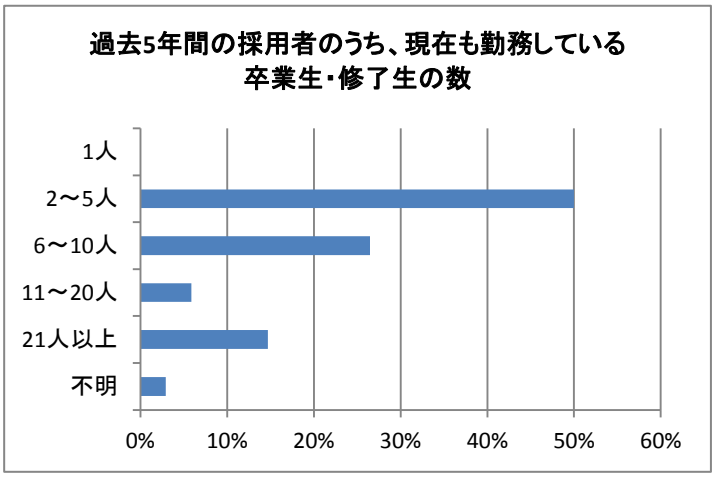


(社)

北海道	28
東京都	2
愛知県	2
大阪府	2
計	34

４．過去５年間の採用者のうち、現在も勤務している卒業生・修了生数

○2～5 人が 17 社 50%と最多であるが、11 人以上も 7 社 20.6%を占めていた。



(人)

1 人	0
2～5 人	17
6～10 人	9
11～20 人	2
21 人以上	5
不明	1
計	34

５．勤務している卒業生・修了生の学部・研究科別人数

○勤務している回答企業の卒業生の内訳は、薬学部 17 社、看護福祉学部臨床福祉学科 12 社、看護福祉学部看護学科 9 社、心理科学部言語聴覚療法学科 8 社、心理科学部臨床心理学科 7 社、歯学部 6 社であった。1 企業等に在職している人数は、10 人以上が 13 社と最も多かった。

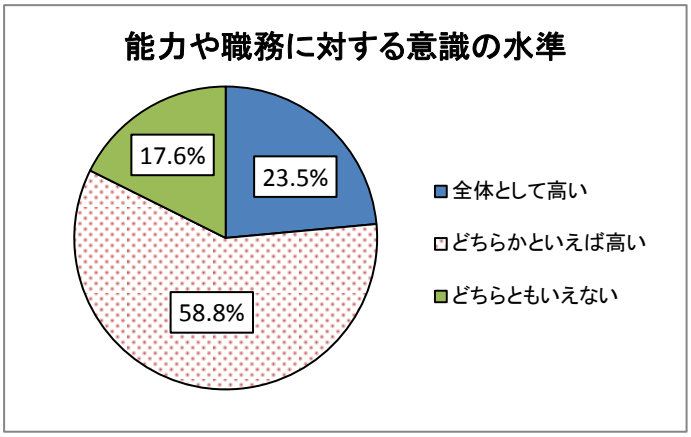
	企業数	人数					
		1人	2人	3人	4人	5～9人	10人～
薬学部	17	0	1	3	2	5	6
歯学部	6	2	1	1	0	1	1
看護福祉学部看護学科	9	3	2	1	1	0	2
看護福祉学部臨床福祉学科	12	5	0	2	3	1	1
心理科学部臨床心理学科	7	2	2	0	1	1	1
心理科学部言語聴覚療法学科	8	1	2	2	1	0	2
薬学研究科	3	1	0	1	1	0	0
歯学研究科	0	0	0	0	0	0	0
看護福祉学研究科看護学専攻	3	1	0	2	0	0	0
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻	1	1	0	0	0	0	0
心理科学研究科臨床心理学専攻	2	1	0	1	0	0	0
心理科学研究科言語聴覚学専攻	0	0	0	0	0	0	0

■Ⅱ．卒業生・修了生の能力や職務水準の評価

６．本学卒業生・修了生の能力や職務に対する意識の水準

選択肢：５．全体として高い　４．どちらかと言えば高い　３．どちらともいえない
２．どちらかといえば低い　１．低い

○全体として高い 8 社 23.5%、どちらか言えば高い 20 社 58.8%、合計 82.3%と高い評価を得た。

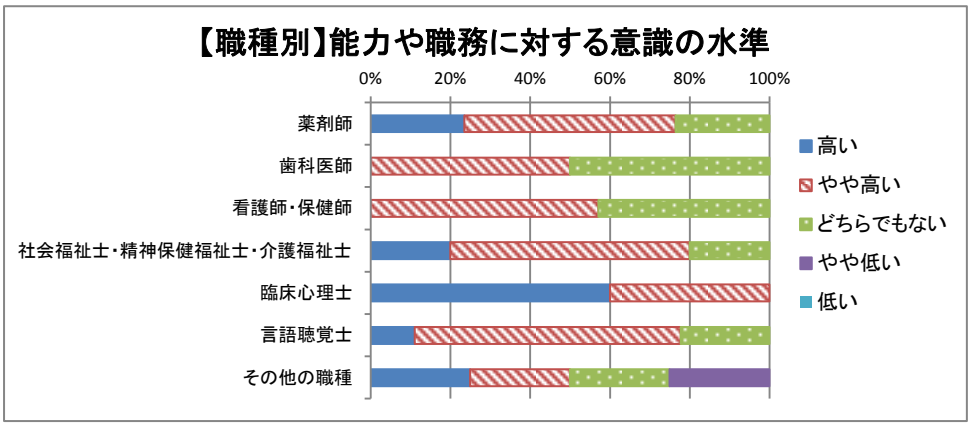


全体として高い	8
どちらかといえば高い	20
どちらともいえない	6
どちらかといえば低い	0
低い	0
計	34

７．職種別に本学卒業生・修了生の能力や職務に対する意識の水準

選択肢：５．全体として高い　４．どちらかと言えば高い　３．どちらともいえない
２．どちらかといえば低い　１．低い

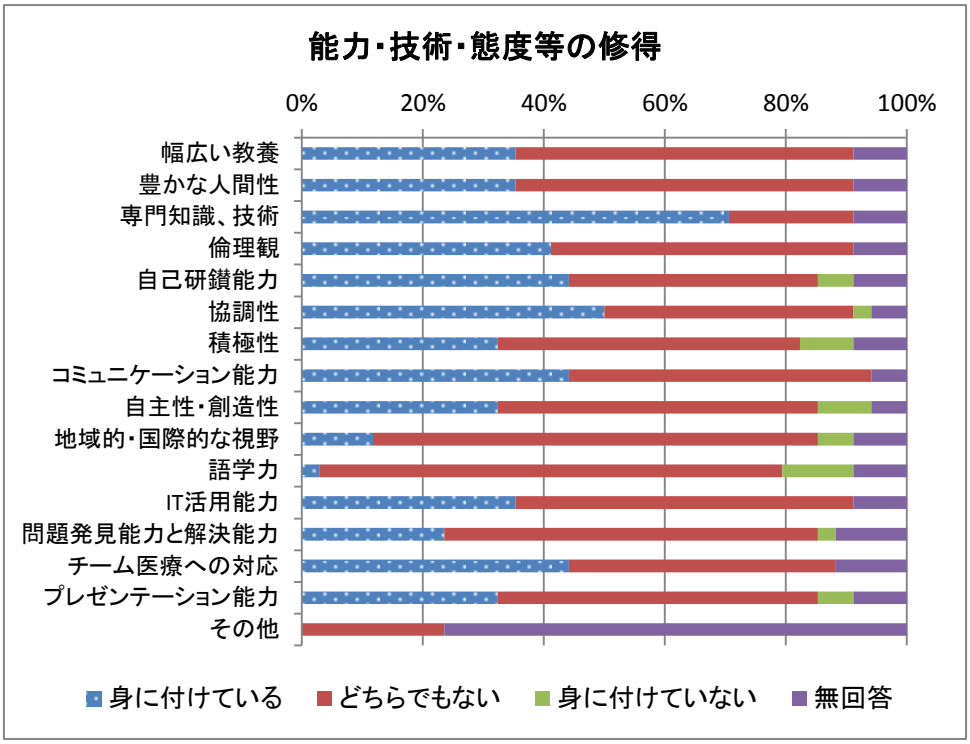
○「高い、やや高い」という評価の合計の比率は、薬剤師 13 社 76.4%、歯科医師 2 社 50%、看護師・保健師 4 社 57.1%、社会福祉士・介護福祉士 8 社 80%、臨床心理士 5 社 100%、言語聴覚士 7 社 77.8%、その他職種 2 社 50%という評価であった。その他職種 1 社にやや低いと評価があったが、他の職種に「低い」という評価が 1 社もないことは、本学の評価と教育成果の表れと考えられる。



８．能力・技術・態度等

選択肢：３．身に付けている　２．どちらともいえない　１．身に付けていない

○「どちらでもない」という回答比率が高かったが、「身に付けている」と評価された個別項目は、「専門的知識、技術」24 社 70.6%、「協調性」17 社 50.0%、「自己研鑽能力」15 社 44.1%、「コミュニケーション能力」15 社 44.1、「チーム医療への対応」15 社 44.1%「倫理観」14 社 41.1%が比較的に高い割合であった。また、3 社以上が身についていないと評価した項目は、「積極性」「自主性・創造性」「地域的・国際的な視野」「語学力」であった。



(社)

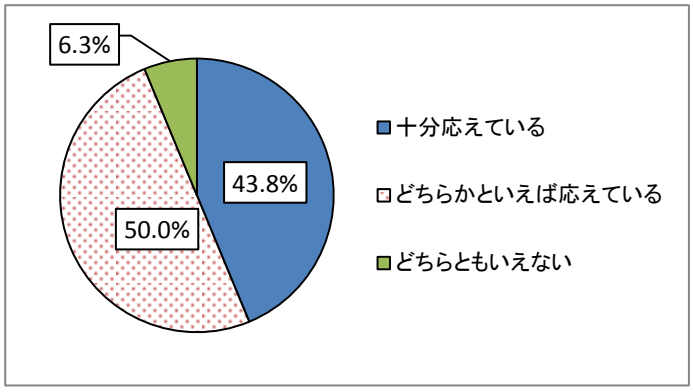
	身に付けている	どちらでもない	身に付けていない	無回答
幅広い教養	12	19	0	3
豊かな人間性	12	19	0	3
専門知識、技術	24	7	0	3
倫理観	14	17	0	3
自己研鑽能力	15	14	2	3
協調性	17	14	1	2
積極性	11	17	3	3
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	15	17	0	2
自主性・創造性	11	18	3	2
地域的・国際的な視野	4	25	2	3
語学力	1	26	4	3
IT 活用能力	12	19	0	3
問題発見能力と解決能力	8	21	1	4
チーム医療への対応	15	15	0	4
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力	11	18	2	3
その他	0	8	0	26

９．企業の人材ニーズや期待に応えているか

選択肢：５．応えている　４．どちらか言えば応えている　３．どちらともいえない

２．やや不足している　１．不足している

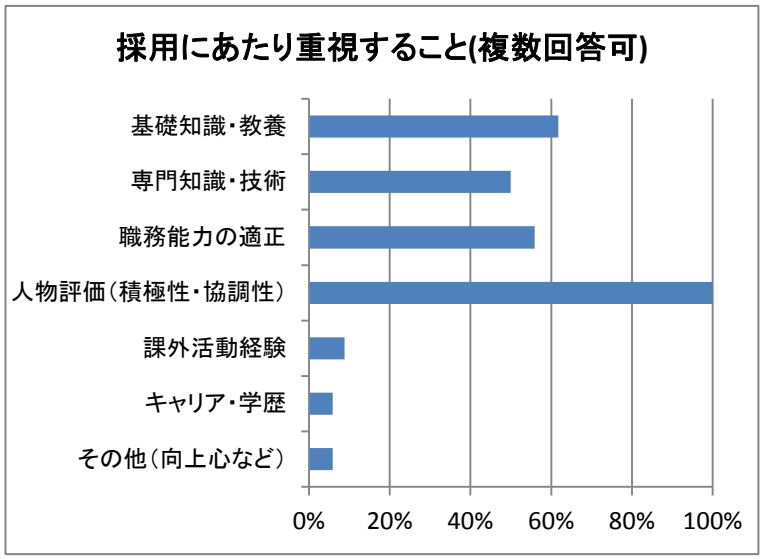
○「応えている」14 社 41.2%、「どちらかといえば応えている」16 社 47.1%、合計 88.3%と高い評価を得ている。なお、今回評価の低かった項目について、個人の意識や企業の求める職務能力の違いもその要因であると考えられるが、今後も各企業等の期待に応えていくためには、それらに対する指導も必要である。



■Ⅲ．企業の採用基準について

11．学生を採用するにあたって重視することについて

○学生を採用するにあたって重視することは、「人物評価」100%、「基礎知識・教養」61.8%、「職務能力の適正」55.9%であった。

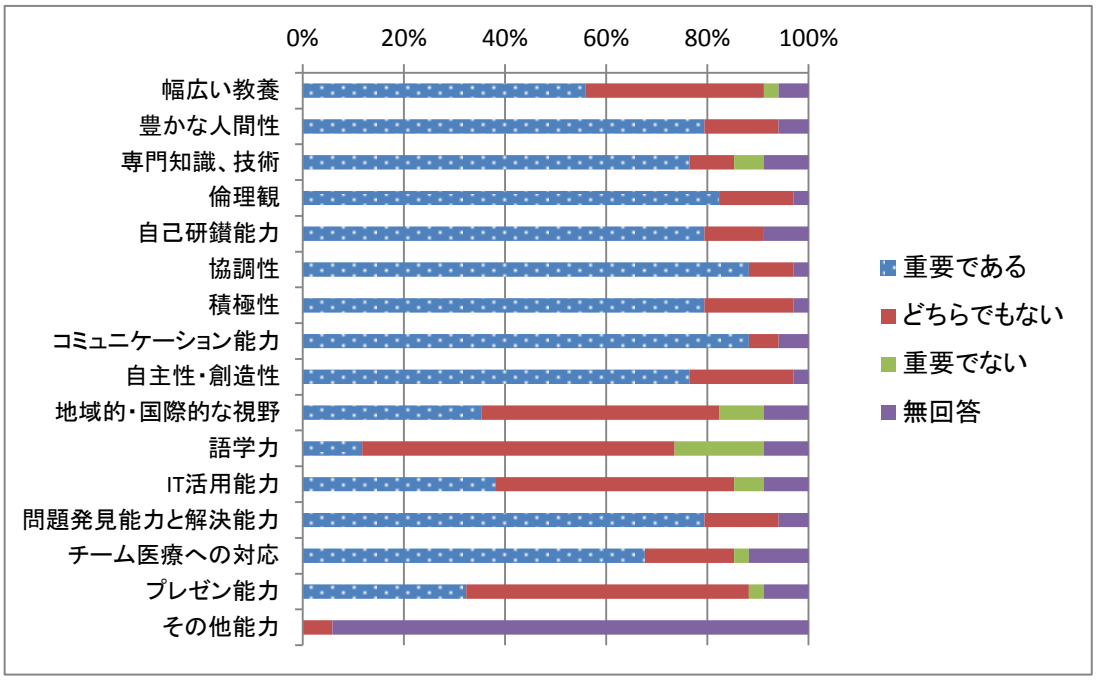


基礎知識・教養	21
専門知識・技術	17
職務能力の適正	19
人物評価（積極性・協調性）	34
課外活動経験	3
キャリア・学歴	2
その他（向上心など）	2

12．業務を遂行していく中で重要な能力・態度等について

選択肢：3．重要である　２．どちらともいえない　１．重要でない

○業務を遂行していく中で重要な能力・態度として、上位から協調性 88.2%、コミュニケーション能力 88.2%、倫理観 83.4、%、豊かな人間性 79.4%、専門知識、技術 76.5%、自己研鑽能力 79.4%、積極性 79.4%、自主性・創造性 76.5%、問題発見能力と解決能力 79.4%といずれも高く、ＩＴ活用能力 38.2%、プレゼンテーション能力 32.4%、地域的・国際的な視野 35.3%、語学力 11.8%と低かった。



	重要である	どちらでもない	重要でない	無回答
幅広い教養	19	12	1	2
豊かな人間性	27	5	0	2
専門知識、技術	26	3	2	3
倫理観	28	5	0	1
自己研鑽能力	27	4	0	3
協調性	30	3	0	1
積極性	27	6	0	1
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	30	2	0	2
自主性・創造性	26	7	0	1
地域的・国際的な視野	12	16	3	3
語学力	4	21	6	3
IT 活用能力	13	16	2	3
問題発見能力と解決能力	27	5	0	2
チーム医療への対応	23	6	1	4
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力	11	19	1	3
その他	0	2	0	32

■自由記述（件数）

10 学生時代に身に付けておいて欲しい能力・技術等	13 卒業生・修了生のイメージや教育に関する意見等
8	12

北海道医療大学卒業生・修了生に関するアンケート調査票

アンケートの回答は、自由記載以外該当番号に○印または番号、数字をご記入願います。

Ⅰ．貴社の概要についてお伺いいたします。

１．貴社の従業員規模（正規従業員）をお知らせください。

１．～50 人　２．51～100 人　３．101～300 人　４．301 人～500 人　５．500 人以上

２．貴社の業種をお知らせください。

１．農林水産鉱業　2．建設業　3．製造業　4．電気・ガス・熱供給・水道業
５．情報通信業　6．運輸業・郵便業　７．卸売・小売業　８．金融・保険業
９．不動産業・物品貸借　10．学術研究、専門・技術サービス業　11．宿泊・飲食サービス業　12．生活関連サービス業・娯楽業　13．教育・学習支援業　14．医療・福祉
15．複合サービス業　16．その他サービス業　17．公務（他に分類されるものを除く）
18．その他の業種（　　）

３．貴社の本社（本部）の所在地について、都道府県名でご記入ください。

４．貴社で過去 5 年間（平成 22 年度～平成 26 年度）に採用した北海道医療大学卒業生のうち、現在も勤務している卒業生数について、おわかりになる範囲で、およその人数でも結構ですので、お知らせください。

１．1 人　２．2～5 人　３．6～10 人　４．11～20 人　5.21 人以上　６．不明

５．貴社に勤務している北海道医療大学卒業生・修了生の、卒業学部・大学院についておわかりになる範囲で、およその人数でも結構ですので、ご記入ください。

１．薬学部（　　人）　２．歯学部（　　人）　３．看護福祉学部看護学科（　　人）
４．看護福祉学部臨床福祉学科（　　人）　５．心理科学部臨床心理学科（　　人）
６．心理科学部言語聴覚療法学科（　　人）
７．薬学研究科（　　人）　８．歯学研究科（　　人）　９．看護福祉学研究科看護学専攻（　　人）　10．看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（　　人　）　11．心理科学研究科臨床心理学専攻（　　人）　12．心理科学研究科言語聴覚学専攻（　　人）

Ⅱ．北海道医療大学卒業生・修了生についてお伺いいたします。

６．北海道医療大学の卒業生・修了生の能力や職務に対する意識の水準の印象について、どのように評価されますか。

５．全体として高い　４．どちらかといえば高い　３．どちらともいえない
２．どちらかといえば低い　１．低い

7．北海道医療大学の卒業生・修了生の能力や職務に対する意識の水準について、職種別にどのように評価されますか。該当する選択肢の番号をご記入ください。

【５．全体として高い　４．どちらかといえば高い　３．どちらともいえない
２．どちらかといえば低い　１．低い】

１．薬剤師（　　）　２．歯科医師（　　）　３．看護師・保健師（　　）
４．社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士（　　）　５．臨床心理士（　　）
６．言語聴覚士（　　）　７．その他の職種（　　）

8．北海道医療大学卒業生・修了生が能力・技術・態度等を身に付けているかの印象について、該当する選択肢の番号をご記入ください。

【３．身に付けている　２．どちらともいえない　１．身に付けていない】

１．幅広い教養（　　）　２．豊かな人間性（　　）　３．専門知識、技術（　　）
４．倫理観（　　）　５．自己研鑽能力（　　）　６．協調性（　　）
７．積極性（　　）　８．コミュニケーション能力（　　）　９．自主性・創造性（　　）
10．地域的・国際的な視野（　　）　11．語学力（　　）　12．IT 活用能力（　　）
13．問題発見能力と解決能力（　　）14．チーム医療への対応（　　）
15．プレゼンテーション能力（　　）
16．その他（具体的に：　　）

9．北海道医療大学の卒業生・修了生は全体として、貴社の人材ニーズや期待に応えていると思われますか。

５．十分応えている　４．どちらかといえば応えている　３．どちらともいえない
２．やや不足している　１．不足している

10．北海道医療大学の学生が学生時代に身につけておいて欲しい能力・技術・態度や経験しておいて欲しいこと等について、何かご意見があれば自由にお書きください。

Ⅲ．貴社の採用基準についてお伺いします。

11．貴社が学生を採用するにあったて重視されることはなんですか。（複数可）

１．基礎知識・教養　２．専門知識・技術　３．職務能力の適正　４．人物評価（積極性・協調性）　５．課外活動経験（サークル・ボランティアなど）　６．キャリア・学歴
７．その他（具体的に　　）

12.貴社における業務を遂行していく中で重要と思われる能力・態度等について、該当する選択肢の番号をご記入ください。

【３．重要である　　２．どちらともいえない　１．重要でない】

１．幅広い教養（　　）　２．豊かな人間性（　　）　３．専門知識、技術（　　）
４．倫理観（　　）　５．自己研鑽能力（　　）　６．協調性（　　）
７．積極性（　　）　８．コミュニケーション能力（　　）　９．自主性・創造性（　　）
10．地域的・国際的な視野（　　）　11．語学力（　　）　12．IT 活用能力（　　）
13．問題発見能力と解決能力（　　）14．チーム医療への対応（　　）
15．プレゼンテーション能力（　　）
16．その他重要と思われる能力（具体的に　　）

13.北海道医療大学および北海道医療大学の卒業生・修了生について、どのようなイメージをお持ちであるか、また、北海道医療大学の教育に関するご意見、ご希望をご自由にお書きください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。